のんびり

12 non-biri
2015 Spring





秋田にはうまい飯とうまい酒があります。
その豊かさが秋田の実直なものづくりを支えてきました。
そして同時に、秋田の人々のなかには
大らかで力強い「のんびり」精神が育まれました。

そんなのんびり秋田は
右肩上がりな経済成長という
ゴールなきゴールに向かい
懸命に走ってきたニッポンにとって
まるでビリを走るランナーのように
映っていたかもしれません。

けれど世の中は変わりました。

順位など気にせずのんびり歩いてきたことが
まさに「ノンびり」となる時代がやってきました。
日本人の多くは今、
うまい飯が食べられてうまい酒が飲めるという
当たり前の豊かさについて考え直しています。
しかし秋田では昔も今も、ずっと
それが人々の暮らしの真ん中にありました。

ビリだ一番だ。上だ下だ。と
相対的な価値にまどわされることなく
自分のまちを誇りに思い、他所のまちも認め合う。
そんなニッポンのあたらしい〝ふつう〟を
秋田から提案してみようと思います。

のんびり編集部

表紙の撮影場所

北秋田市米内沢（よないざわ）



唄を忘れた金糸雀（かなりや）は
象牙の船に銀の櫂（かい）
月夜の海に浮べれば
忘れた唄をおもいだす

今号の表紙は、特集テーマの作曲家・成田為三（なりたためぞう）の出身地、北秋田市米内沢での撮影。為三が作曲した、日本初の童謡といわれる『かなりや』の世界を、森吉（もり よし）公民館のホールに再現しました。

もの悲しく始まりながらも、後半は軽やかに転調し美しい世界が広がるこの曲。その情景をイメージしながら、今号も秋田公立美術大学の学生たちが大道具を制作してくれました。大きなカナリヤ、船、波などが配置された舞台は、まるで歌からそのまま飛び出したかのように幻想的！

そこに「浜辺の歌音楽館少年少女合唱団」のみなさんがお揃いの赤いチェックの制服で登場！ 普段の練習とは違う光景に、始めはみんな緊張気味でしたが、素敵な舞台で大好きな『かなりや』を歌うと、自然と笑顔に。その歌声に写真家の浅田政志やのんびりチームもうっとり……。今にもメロディが聴こえてきそうな一枚に仕上がりました！ その様子は「のんびり公式ウェブサイト」で公開中。また、写真が動画として楽しめる「AR」という技術を使った特別動画では、合唱団の素敵な歌声も聴くことができます。スマートフォンをお持ちの方は、下記を参照の上、専用のアプリをダウンロードし、上の写真をご覧ください。

「動画の再生方法」

①専用の「ビューアアプリ」をダウンロード。
②「ビューアアプリ」を起動して設定画面に「ATFM-2509-0561」のチャンネルコードを入力。
③スマートフォンを上記の写真にかざすと、画面上で動画と音声が自動再生!



専用の「ビューアアプリ」のダウンロードは右のQRコード、
または「うごくプリント」で検索してください。
※専用の「ビューアアプリ」はiOS6.0以降、Android OS Ver4.1以降　対応

『のんびり』表紙写真ができるまで。写真家浅田政志と奮闘したその過程を公開中！ http://non-biri.net

1 のんびり まっすぐ 秋田のくらし

特集
4 たのためぞ ～成田為三が伝えたかったこと～

第1章
6 浜辺の歌音楽館へ

第2章
12 後藤惣一郎さん

第3章
18 浜辺の歌のピアノ

24 ほかにもあります 成田為三作曲集

第4章
26 NMC結成!?

第5章
34 たのためぞ

44 詩修 詩人が描く 池田修三の言葉⑦ 伊藤綾子／ガールズレヴォリューション

45 写真家 浅田政志の 撮らずにはいられない!! 第12回／新成人

50 いぶりがっこの村へ。

57 下戸式秋たんぼう 福田利之 第12回／夢がふくらみアレもふくらむ紙風船

62 non-biri akita access map









特集

たのためぞ

成田為三が伝えたかったこと

取材・文＝藤本智士
Text＝Satoshi Fujimoto
写真＝浅田政志／鍵岡龍門／船橋陽馬
Photo＝Masashi Asada/Ryumon Kagioka/Yoma Funabashi

本誌『のんびり』での特集をきっかけに、人気が高まっている秋田県にかほ市象潟町出身の木版画家、池田修三さん。多くの方の協力を得て、生前には成し得なかった美術館での展覧会を開催することができたのは、昨年の秋のこと。

初日開館前から行列ができるなど、想像を遥かに超える動員に、幸福いっぱいな日々を過ごしていた僕たちは、いよいよ累計動員一万人を突破しようかという展覧会8日目の夜、本誌連載「詩修」にもご協力いただいたご縁から、放送作家でミュージシャンの倉本美津留さんを東京からお呼びしてトークイベントを開催しました。倉本さんは、普段兵庫県に住むよそ者の僕だからこそ池田修三の魅力を見いだすことができたのだと言ってくださり、またそんなよそ者を信頼しここまで一緒に盛り上げてくれた地元秋田の人たちの素晴らしさについて熱く語ってくださいました。さらに、会場である秋田県立美術館に所蔵されている、藤田嗣治の大作『秋田の行事』を観るために、以前倉本さんが秋田を訪れていたことがわかるなど、トークもライブも大盛り上がり。イベントは大成功し、意気揚々と打ち上げ会場へと移動していたときのことです。

タクシーの中で倉本さんは、僕にあらためて本誌『のんびり』の感想を伝えてくれて、さらに、『のんびり』で取りあげるべきある人物について教えてくれました。その人の名は、成田為三。僕は「なりたためぞう」というその語感を聴いた瞬間に身体が小さく震えるのを感じました。

どうやら僕たちは、秋〝田〟の地に生を受けた〝三〟男坊に縁があるようです。倉本さんの口から出た、池田修三と成田為三という名前の不思議なシンクロと、倉本さんが語ってくれる成田為三の功績に、僕はタクシーの中で確信めいた気持ちを抱きました。思い返せば、それが今回の特集のはじまりです。秋田が誇る作曲家、成田為三をめぐる旅、今回もまた想像もしなかった展開へと転がっていきます。どうぞのんびりゆったりお付き合いください。

藤本智士（のんびり編集長）



1 Chapter 浜辺の歌音楽館へ

1月14日

午前10時半、新幹線でやってきた県外チームと秋田チームが秋田駅で合流。今回も総勢10名という大所帯での取材がスタートします。事前の編集会議で成田為三という作曲家の特集をするということだけは共有していたのですが、詳しい経緯などはお昼ご飯でも食べながら……と、今日一つ目の目的地、成田為三さんが生まれた北秋田市米内沢にある、為三さんの記念館「浜辺の歌音楽館」に向かいつつ、その道中で昼食をとることにします。



実は今回取材を進めるにあたって、僕は助っ人を一人呼んでいました。気持ち的にはレギュラーメンバーと言ってよいほど重要な仲間、青谷明日香。ちょうど1年前、『のんびり』8号の秋田内陸線特集の際にも参加してもらい、『みどりのなかを』という曲を一緒に作ってくれた秋田県出身のミュージシャンです。今回は成田為三さんの特集ということで、きっと明日香ちゃんが持っている音楽の素養がなにかしらの局面を突破するチカラとなってくれるはずだと参加してもらったのでした。日々全国をかけまわりライブを続ける彼女。昨年に続きまたもや急なオファーにもかかわらず、よくスケジュールが合ったものだと、秋田駅に到着した明日香ちゃんの顔を見て僕は内心ほっとしていました。



だまこ鍋

お昼12時、きりたんぽ鍋ならぬ、だまこ鍋が有名な五城目町に到着。せっかくならばと、「松竹」というお店で、だまこ鍋をいただくことに。そこでまずは今日の予定を整理します。予定は大きく二つ。



❶浜辺の歌音楽館に行って、成田為三についてみんなで勉強。

❷音楽館建設に尽力され、為三さんに関する書物も書かれている作曲家の後藤惣一郎さんにお話を伺う。

さらに僕は、今晩お会いする予定の後藤惣一郎さんの著書『浜辺の歌〈小伝〉成田為三』（渡部誠一郎著『鳴呼玉杯〈小伝〉楠正一』と併録／秋田魁新報社）を参考にしながら、為三さんのことをのんびりチームにできるだけ簡潔に説明してみます。ここでみなさんも一緒に成田為三さんについて、知ってもらえればと思います。



成田為三ってどんな人？

明治26年12月15日、米内沢村（現・北秋田市米内沢）に生まれた成田為三。秋田県師範学校を卒業後、鹿角郡毛馬内尋常高等小学校の教師となる。



純粋な音楽教育を目指し、教えるというよりは一緒になって楽しむ姿勢を貫いた為三さんは、主要科目重点主義の学校当局の受けはよくなかったものの、子どもたちからは大人気で、後任の先生が来たときには為三さんを慕う生徒たちがその先生をボイコットしたほどだそうです。

その1年後の大正3年には東京音楽学校に入学。当時音楽学校には作曲科がなかったため、ドイツ帰りの山田耕筰に師事して作曲を学ぶ。



音楽への夢が捨てきれなかった為三さんは、毛馬内尋常高等小学校から別の小学校への転勤を命じられたのですが、念願の東京音楽学校に合格したことから新しい小学校に赴任することなく上京しました。

その在学中、大正5年頃に作曲されたのが『浜辺の歌』。しばらく未発表だったが、卒業後の大正7年、セノオ楽譜出版社から竹久夢二装幀のもと出版。

しかし『浜辺の歌』が全国的に知られるようになったのは、昭和22年発行、文部省編纂の『中学音楽（3）』に採用されてからでした。平成18年に文化庁が実施した「親子で歌いつごう日本の歌百選」では見事大賞に輝くなど、いまもなお全国で広く親しまれています。

大正8年、鈴木三重吉が創刊した童謡・童話雑誌『赤い鳥』に、日本で初めての童謡といわれる『かなりや』の楽譜が掲載されたのを機に、同誌の専属作曲家となって『赤い鳥小鳥』『りすりす小栗鼠』など数々の童謡を作曲発表。



当時の唱歌は、地理を覚えさせるためや、歴史や教訓をうたったものが主流で、音楽そのものの美しさを求めるものはなかったという実感が、小学校で指導をした為三さんのなかにもあったのかもしれません。それゆえ、子どもの真の歌心を満足させる芸術的な歌が必要だと童謡運動を興した鈴木三重吉という人の考えに為三さんはまっすぐ共感し、作曲をしたのだと思います。



大正10年、27歳のときにドイツへ留学。作曲界の大御所と言われたロバート・カーンから作曲理論を学ぶ。

その後大正14年には帰国して鈴木文子さんと見合い結婚した為三さん。帰国してからはあまり表舞台を好まず、ドイツで身につけた対位法という当時の日本の音楽教育になかった作曲法を用い、多くの輪唱曲や理論書を刊行しました。

昭和20年4月13日の東京空襲により、家財や大切な楽譜などすべてを焼失。失意のうちに郷里へ帰り、同年再び上京するも、その2日後脳溢血で倒れ急逝。51歳。



『浜辺の歌』を聴いてみよう！
non-biri.net/music/hamabe.mp3

『かなりや』を聴いてみよう！
non-biri.net/music/kanariya.mp3

のんびりウェブサイトでは『かなりや』のPVも公開しています。
non-biri.net

Illustration: 加賀谷奏子

『のんびり』のやり方

美味しいだまこ鍋を食べながら、前述のような為三さん情報をのんびりチーム全員に説明し、共有します。と、ここで少し補足ですが、これは取材メンバーが不勉強ということでは決してなく、僕はのんびり取材に限って、毎回みんなにあまり下調べをしてこないようにお願いしています。妙な知識で頭でっかちになるのではなく、現場での体感や、そこから自然に出てくる言葉を大切にしたい僕は、情報や知識を一旦僕の頭のなかだけに詰め込んで、それを整理したものを当日みんなに投げるようにします。そうしなければ、多忙なみんなが秋田に集結するたった4日間のなかで、真に実感を伴った取材を終えるところまで辿り着けないとも思うからです。少し話がずれますが、『のんびり』もこれで12号。おかげさまで丸3年も続けることができました。しかしながら毎度毎度の年度末。秋田県のオフィシャルな発行物である『のんびり』が、次年度も発行できるかどうかは現時点ではわからないゆえ、これが最終号となるかもしれず、少しいらないことを書いてしまいました。

池田修三のカナリヤ

さあ話を戻しましょう。さらに僕は成田為三さんに関して気になっていることを話してみます。まず一つは、序文にも書いた成田為三と池田修三さんとの不思議なご縁のことでした。今号の表紙は西条八十作詞、成田為三作曲の『かなりや』の世界を元に撮影していることはわかっていただけると思うのですが、この『かなりや』をビジュアル化するにあたってモチーフにしたのは、まさに『カナリヤ』というタイトルの池田修三さんの木版画作品でした。

そこで気になったのが、大正7年、竹久夢二装幀のもとセノオ楽譜出版社から出版されたという『浜辺の歌』の楽譜です。竹久夢二といえば当時大人気の作家。池田修三さんも竹久夢二のことを敬愛していたといいますから、いつか竹久夢二のように為三さんの楽譜の表紙を飾ってみたいという気持ちでカナリヤの画を描いたのではないだろうか？　僕はそんなふうに思っていました。





記念館が建つということ

そしてもう一つは、「浜辺の歌音楽館」のことでした。確かに『浜辺の歌』は国民的な歌です。しかし記念館が建つというのは並大抵のことではありません。しかも記念館のある米内沢は決してアクセスが良いとは言えないとても小さな町。その背景には計り知れないほどの情熱があったことが想像されます。そして僕は、そこに情熱をかけた人物の一人が、先述の『浜辺の歌〈小伝〉成田為三』の著者で作曲家の後藤惣一郎さんなんじゃないかと感じていました。

浜辺の歌音楽館

午後2時半、米内沢にある「浜辺の歌音楽館」に到着。珍しく晴れ間が広がる冬の秋田の空の下、大正時代の洋風建築をイメージした八角形の建物が一層愛らしく映ります。館内に足を踏み入れると、北秋田市教育委員会生涯学習課の小塚篤史さんが僕たちを待っ





ていてくれました。案内されるまま2階へと上がると、貴重な資料が並ぶその中心に小さなステージがあり、そこにグランドピアノが1台と為三さんそっくりなロボットがいました。背後のスクリーンに為三さんの生涯を紹介する映像が投影されるということで、まずは全員で鑑賞することにします。

子どもたちのための芸術音楽がなかった大正時代、『赤い鳥』が出版され、『かなりや』を作曲したこと。その後音楽の勉強のためにドイツに行き、当時、日本になかった輪唱音楽を広めたことなどが、10分程度の映像として簡潔にまとめられていました。途中、かわいらしいアニメーションに連動して『浜辺の歌』や『かなりや』など為三さんの代表曲がステージのピアノによって自動演奏されたのですが、開館から25年以上が経ち、うまく動かなくなってしまった為三ロボットの手指が悲しげに膝の上のエア鍵盤を叩いているのを見て、僕はなぜかNHKの朝ドラ『あまちゃん』の冒頭のシーンが頭を過りました。「きたてつ」こと北三陸鉄道開業に湧く地元のみなさんたち。浜辺の歌音楽館も開館時はあんなふうに祝賀ムードいっぱいだったんだろうか……。情熱を持続させることの難しさ。その熱を受け継いで繋いでいくことの大切さ。それを果たしていくのが『のんびり』の一つの使命かもしれない。僕はそんなことをぼんやり考えていました。



まぼろしの泉

当時、文部省図書編集委員となり『浜辺の歌』を中学校、『かなりや』を小学校の音楽教科書に採用した成田為三の一番弟子、岡本敏明さんへの手紙や、貴重な手書きの楽譜、また例の竹久夢二が表紙を描いた『浜辺の歌』楽譜など、展示資料をゆっくり見せてもらった僕たちは、続いて1階の試聴コーナーへと移動します。それぞれに為三さんの曲の貴重な音源に触れるなか、誰よりも熱心に試聴を続けていたのは青谷明日香ちゃんでした。それぞれに資料を見直したり為三さんについて知識を深めようとするなか、1時間程経った頃でしょうか、ずっと集中して試聴を続けていた明日香ちゃんが、突然、案内してくださった小塚さんのもとに行き「あの～、『まぼろしの泉』っていう曲の資料ありますか?」と質問します。小塚さんは「ありますよ」と言ってすぐに奥の資料室から当時出版された楽譜を持ってきてくれました。



青谷　うわあ～。

藤本　すごい!

青谷　これ為三さんが作ったジャズソングだそうなんです。

藤本　へぇ～!　いかにも、な表紙。

青谷　向こうにこの曲名とジャズの曲だって書いてあったのを見つけて気になってしまって。これ聴けたりするんですか?

小塚さん（以下敬称略）　ちょっと、音源がなくてですね。

青谷　そうなんですか～。

小塚　実際に弾いてみると現在のジャズのようなテンポの速いものではなく、ゆったりとしたリズムだそうです。

藤本　へぇ～。年代は、いつぐらいなんですか?

小塚　昭和4年ですね。

青谷　ドーミソラ……。メロディーだけだったら弾けるかな。

藤本　うん。数ある曲のなかで、明日香ちゃんがなぜかこの曲が気になったってことに、なにか意味がある気がする。もしかしたらすごくいい曲かも。

明日香ちゃんのおかげで、『まぼろしの泉』という、まさに幻のジャズ楽曲の楽譜と出合い、そこに何か特別なものを感じたところで、残念ながらタイムアップ。急いで約束の後藤惣一郎さんのご自宅へと向かいます。





2 Chapter 後藤惣一郎さん

後藤さんとの出会い

浜辺の歌音楽館から車で20分ほど走った住宅街の中に後藤さんのご自宅はありました。息子さんの後藤一美（かずみ）さんが家の前まで出迎えてくださり、毎度のことながら大人数で申し訳ない気持ちになりながらも、お部屋に案内していただきます。成田為三さんと同じく作曲家の後藤惣一郎さん。部屋の片隅には1台のピアノが置かれ、壁には数々の賞状が飾られていました。緊張しながら待っていると、一美さんが「実は明日で93歳になるんです」と、後藤惣一郎さんを連れてきてくださいました。

「えー！　おめでとうございます！」思わず拍手する僕たちに、一美さんは「いや、そういうことで耳も遠くて、喋ることがおかしいところがあるかと……」そう申し訳なさそうに言い、僕たちを気遣って部屋を出て行かれました。確かに93歳というご高齢ですから、きちんと会話ができるのか心配がないと言ったら嘘になります。しかし杞憂でした。この後、僕たちは思いのほか楽しく充実した時間を過ごすことになります。

作曲家
浜辺の歌音楽館
終身名誉館長

後藤惣一郎さん



後藤さん（以下敬称略）　まずは適当に……。

藤本　ありがとうございます。撮影をしたいので、後藤さんもこちらに座っていただいていいですか？

後藤　いえいえ。

矢吹　お話聞きやすいので。

後藤　いえ、上下の差はございませんから。

一同　（笑）。

矢吹　後藤さんも、ぜひ座ってください。

藤本　一緒に座っていただけたら。

後藤　（それでも立ったまま）これが駅前の音楽碑です。

矢吹　音楽碑があるんですね。

後藤　音楽碑が二つあるんです。

藤本　後藤さんの音楽碑が二つある。

後藤　ええ。私の音楽碑は、鷹巣（たかのす）と追分（おいわけ）にもありますよ。二つの碑ができてるけど、鷹巣の人は知らないね。

藤本　へえ〜。そういうものなのか。

後藤　まず、適当におかけください。

一同　ありがとうございます。

藤本　後藤さんもぜひ座っていただいて。

後藤　私は、なんも。

藤本　じゃあ……。

一同　失礼します。（全員、椅子に座る）

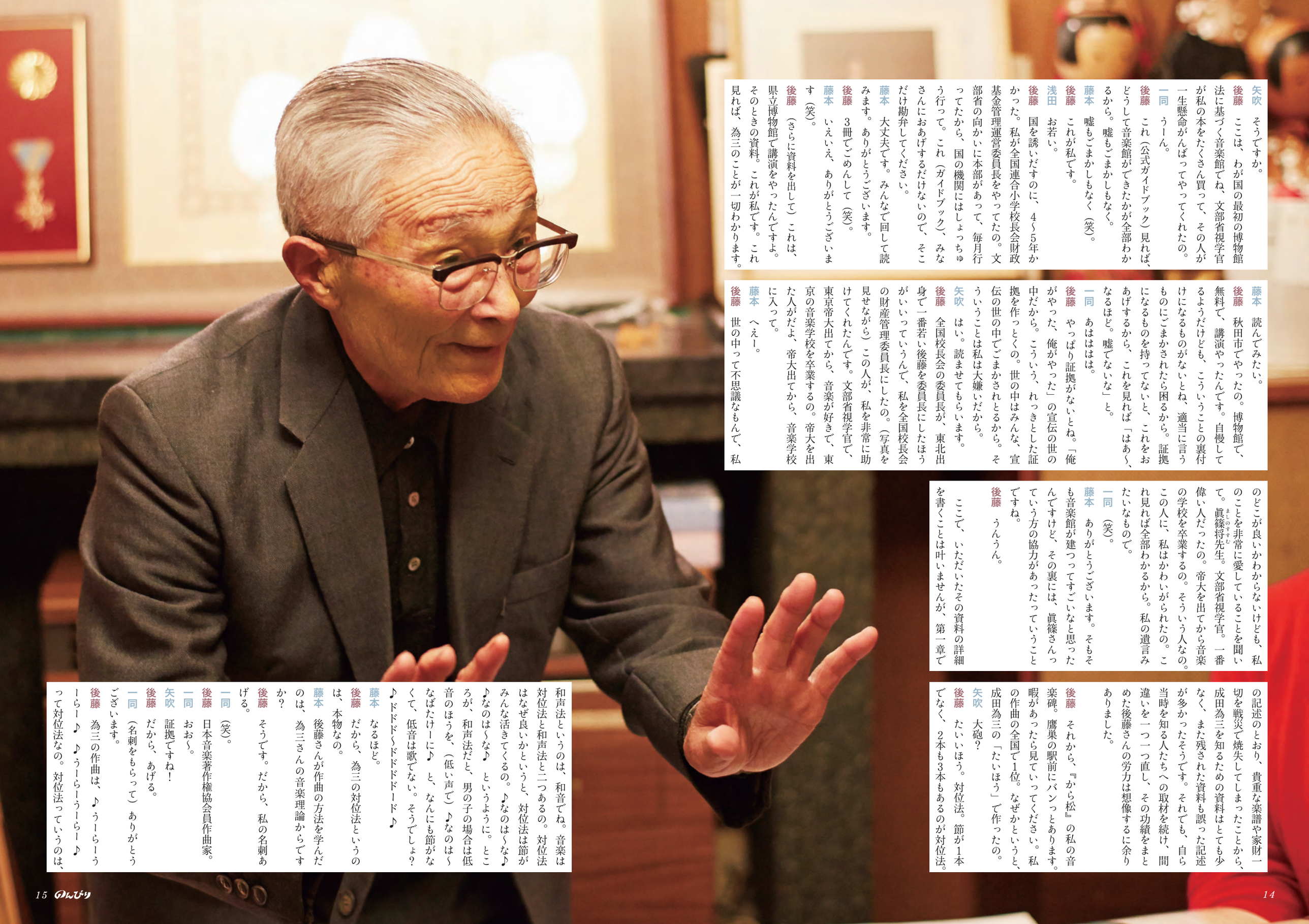
後藤　（奥さんの写真を持って）私の家内です。

と、このとおり会話のキャッチボールが少しうまくいかないところもありますが、矍鑠（かくしゃく）とした姿は、とても92歳とは思えず、何度お願いしても立ったままでお話しされることも、なんだかとても自然なことに思えてきました。

後藤　浜辺の歌音楽館というのは、結局、私が全部内部をやったんです。

一同　へえ〜。

後藤　お金は国からたくさんもらって。



矢吹　そうですか。

後藤　ここは、わが国の最初の博物館法に基づく音楽館でね、文部省視学官が私の本をたくさん買って、その人が一生懸命がんばってやってくれたの。

一同　うーん。

後藤　これ（公式ガイドブック）見れば、どうして音楽館ができたかが全部わかるから。嘘もごまかしもなく。

藤本　嘘もごまかしもなく（笑）。

後藤　これが私です。

浅田　お若い。

後藤　国を誘いだすのに、4〜5年かかった。私が全国連合小学校長会財政基金管理運営委員長をやってたの。文部省の向かいに本部があって、毎月行ってたから、国の機関にはしょっちゅう行って。これ（ガイドブック）、みなさんにおあげするだけないので、そこだけ勘弁してください。

藤本　大丈夫です。みんなで回して読みます。ありがとうございます。

後藤　3冊でごめんして（笑）。

藤本　いえいえ、ありがとうございます（笑）。

後藤　（さらに資料を出して）これは、県立博物館で講演をやったんですよ。そのときの資料。これが私です。これ見れば、為三のことが一切わかります。

藤本　読んでみたい。

後藤　秋田市でやったの。博物館で、無料で、講演やったんです。自慢してるようだけども、こういうことの裏付けになるものがないとね、適当に言うものにごまかされたら困るから。証拠になるものを持ってないと、これをおあげするから、これを見れば「はあ〜、なるほど。嘘でないな」と。

一同　あははは。

後藤　やっぱり証拠がないとね。「俺がやった、俺がやった」の宣伝の世の中だから。こういう、れっきとした証拠を作っとくの。世の中はみんな、宣伝の世の中でごまかされとるから。そういうことは私は大嫌いだから。

矢吹　はい。読ませてもらいます。

後藤　全国校長会の委員長が、東北出身で一番若い後藤を委員長にしたほうがいいっていうんで、私を全国校長会の財産管理委員長にしたの。（写真を見せながら）この人が、私を非常に助けてくれたんです。文部省視学官で、東京帝大出てから、音楽が好きで、東京の音楽学校を卒業するの。帝大を出た人がだよ、帝大出てから、音楽学校に入って。

藤本　へえー。

後藤　世の中って不思議なもんで、私のどこが良いかわからないけども、私のことを非常に愛していることを聞いて。眞篠将先生。文部省視学官。一番偉い人だったの。帝大を出てから音楽の学校を卒業するの。そういう人なの。この人に、私はかわいがられたの。これ見れば全部わかるから。私の遺言みたいなもので。

一同　（笑）。

藤本　ありがとうございます。そもそも音楽館が建ってすごいなと思ったんですけど、その裏には、眞篠さんっていう方の協力があったっていうことですね。

後藤　うんうん。

　ここで、いただいたその資料の詳細を書くことは叶いませんが、第一章での記述のとおり、貴重な楽譜や家財一切を戦災で焼失してしまったことから、成田為三を知るための資料はとても少なく、また残された資料も誤った記述が多かったそうです。それでも、自ら当時を知る人たちへの取材を続け、間違いを一つ一つ直し、その功績をまとめた後藤さんの労力は想像するに余りありました。

後藤　それから、『から松』の私の音楽碑。鷹巣の駅前にバンっとあります。暇があったら見ていってください。私の作曲の全国で1位。なぜかというと、成田為三の「たいほう」で作ったの。

矢吹　大砲？

後藤　たいほう。対位法。節が1本でなく、2本も3本もあるのが対位法。和声法というのは、和音でね。音楽は対位法と和声法と二つあるの。対位法はなぜ良いかというと、対位法は節がみんな活きてくるの。♪なのは〜な♪♪なのは〜な♪というように。ところが、和声法だと、男の子の場合は低音のほうを、（低い声で）♪なのは〜なばたけー♪と、なんにも節がなくて、低音は歌でない。そうでしょ？♪ドドド〜ドドドード♪

藤本　なるほど。

後藤　だから、為三の対位法というのは、本物なの。

藤本　後藤さんが作曲の方法を学んだのは、為三さんの音楽理論からですか？

後藤　そうです。だから、私の名刺あげる。

一同　（笑）。

後藤　日本音楽著作権協会員作曲家。

一同　おお〜。

矢吹　証拠ですね！

後藤　だから、あげる。

一同　（名刺をもらって）ありがとうございます。

後藤　為三の作曲は、♪うーらーうーらー♪♪うーらーうーらー♪って対位法なの。対位法っていうのは、

節が2本も3本もあるの。和声法というのは、節が1本しかない。だから、あんたがたが合唱をやるとき、女の子は、たいそういいわけだ。節歌って。だけど男の子は（音程が変わらず）♪なのはーなーばたけーで♪ それの何が音楽で何がおもしろいの？ って。こういうことを解決したのが対位法なの。それが為三の十八番なの。

一同 へえ〜。

後藤 だから、私が全国作曲コンクールで第1位になったのは、為三の対位法にあったんです。

藤本 なるほど。

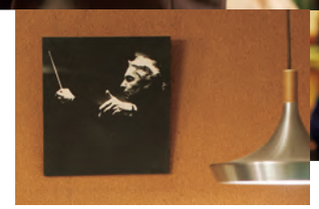
後藤 全国作曲コンクールで第1位。そして、この後藤の以外は対位法のものでないから、後藤以外はいらないと。私だけ第1位にして、2位も3位も佳作も全部ないの。私だけ、一人だけ。審査員だった方があとはいらないっていうんで、私の曲だけしか。そして、教科書に採用された。

藤本 それが『から松』なんですね。

後藤 『から松』。成田為三の対位法というのは、ほんと、本物なの。







藤本 なるほど。後藤さんは、小学校で子どもたちに音楽を教えておられたんですよね？

後藤 はい。私は、鷹巣の中学校全部の作曲して。作ったのは600曲あるんですよ。

一同 ええ〜〜!!

矢吹 600曲！

藤本 すごい。

浅田 校歌とかですか？

後藤 鷹巣も、大館も、秋田のほぼ全部、私の若い頃に作った。

浅田 ちなみに後藤さんが好きな為三さんの曲はなんですか？

後藤 為三の曲はね、対位法だから。♪うーらーうーらー♪

藤本 とにかく対位法がいいんだ（笑）。為三さんはオーケストラの曲も作っていたんですよね？

後藤 いや〜、それが専門だ。

藤本 童謡とか、『浜辺の歌』とか、そういうイメージですけど。

後藤 『浜辺の歌』とか、童謡の作曲は大変嫌がったんです。為三はオーケストラの作曲家なんです。

一同 へぇ〜。

後藤 為三は、和声法も対位法もマスターしてオーケストラを作ったの。為三が初めてオーケストラを作った楽譜は音楽館にありますよ。為三がオーケストラ作るって意外でしょ。

一同 ええ。

後藤 それまでは、オーケストラは全然演奏してないもんだから。オーケストラをやるってなれば楽譜を変えないといけない。オーケストラ用に。それじゃ面倒くさいから。原譜があっても ね、なかなかパート楽譜が作れないためにね、オーケストラは演奏されないの。

一同 なるほど〜。

後藤 為三の曲は対位法。対位法っていうのはね、節が2本も3本もある。1本だけで、あとのほうはごまかしてるのは、教育上も、人間の立場上も全然なってないと。だから、対位法は一番いい。

藤本 対位法と輪唱は一緒ですか？

後藤 そうそう。輪唱は対位法の一つ。

青谷 『から松』聴いてみたいです。

浅田 聴けますか？



後藤 いやあー。テープならいっぱいあるけども。私の作った……。まず、『から松』の音楽碑を見にいってください。碑の歌詞の文字は全部女房が書いたんです。楽譜は私が書いて、文字は家内が。行けばわかる。文字はみえ（奥さんのお名前）。朝、見ていってください。地元の人は私が600曲も作曲してること、何も知らないの。全然。だけど、そのためにこういうものがあれば、わかるでしょ。

矢吹 はい。

後藤 家内は伴奏やってくれた。どんどん曲作っても、弾く人がいないでしょ。困るわけだ。そういう、いつもありがたい女房だ……。いま、家内が亡くなってしまったために、一番助けてくれた家内のことが毎日頭に……。



後藤 『から松』のこの碑、これは私の一番大事なことなの。それが為三の対位法なの。ちゃんと見ていってください。私の人生をかけた戦いに。対位法で『から松』ができたの。それで全国第1位。あとは2位も3位もいらないと審査員の人がたが。そういうことが詰まってる。全国のみんなのおかげ。全国の音大の学生が、卒業生が、そういう私をわかってくれる人がたのおかげで作った碑です。文字は全部、家内が書いたの。楽譜は惣一郎、文字はみえ。碑にちゃんと書いてある。見ていってください。ちゃんと見ていってください。私の証拠なの。

藤本 はい。

矢吹 曲はこちらのピアノで作ってたんですか？

後藤 そうです。私が31歳で、お金がないのにね、やっと借金して買ったの。だって私は秋田県の音楽を指導してて、秋田市から仙北市から横手市から、全部まわって音楽指導したの。だけどね、ピアノがないとね、やっぱりだめだと。だから借金して。そういう恥さらし。だけども、私にとっては人生のすべてだったの。

藤本 そうか〜。

後藤 あ〜、いがった。

一同 (笑)。

後藤 生き甲斐を感じた。

一同 あははは。

藤本 よかった〜。明日誕生日だし。

矢吹 そっか、明日お誕生日なんですよね。

後藤 えっ!?

矢吹 明日お誕生日なんですよね。

浅田 93歳。



後藤 私？

矢吹 ええ。

後藤 違う。

一同 ええ〜〜!!?

藤本 明日ですよ。

矢吹 ここに証拠がありますよ。15日は明日ですよ。1月15日。

藤本 明日1月15日ですよ。

後藤 ああ、1月15日……。(やってしまった！のポーズ)

一同 あははは！

矢吹 おめでとうございます〜！

一同 (拍手)。

後藤 いやあ〜、よがった。最高の出会いだ。

一同 わ〜〜！

後藤 まず、明日の朝、碑を。

矢吹 見にいきますね。

後藤 見ていってください。チャンスだから。雪寄せもしてますから。碑にちゃんと書いてます。文字は家内が書いた。そして、私がなぜ作曲をやってたかっていうことも、ずーーっと書いてある。だから、あの碑をご覧になれば、私は最高に幸せです。

藤本 わかりました。

一同 ありがとうございました。(拍手)





3 Chapter 浜辺の歌のピアノ

託されたもの

同郷の大先輩、成田為三さんを心から尊敬し、真摯に研究し続けたからこそ見えてきた為三さんの真の功績と本当の気持ち。為三さんが日本に広めた対位法による作曲『から松』を、私の一番大事なことと言い、対位法がいかに素晴らしいかを力説する後藤さんは、作曲家である以上に、生涯を子どもたちの未来に捧げてきた一人の教育者なのだと思いました。伴って、僕のなかの成田為三像も、偉大なる音楽家から、一人の教育者へと変化しつつありました。出会い頭から最後まで、ずっと僕たちに何かを託そうとしてくださっていたように見えた惣一郎さんに、のんびりチーム全員が、特別な気持ちを抱きはじめていました。

いつもの「大好き」で

もはや県北取材恒例となりそうな鷹巣の居酒屋「大好き」で夕ご飯を食べながら作戦会議。何度も何度も後藤さんが話してくれたことで、『浜辺の歌』や童謡『かなりや』の作曲家であるという世間のイメージ以上に、とても大きな功績が「対位法」なる作曲法を広めたことにあることがとてもよくわかりました。ドイツから帰国した為三さんが、黙々と対位法を広めるべく、楽曲集を作ったり、音楽理論の書籍を書かれたことが、現在の日本の音楽教育、ひいては日本の音楽界に大きな影響を与えたことは間違いありません。ならば僕たちも、その対位法についてっと詳しく知りたいと思うのは必然でした。しかし、そのためには音楽理論に詳しい人が必要です。そこで思いついたのが、表紙撮影に協力してもらうことになっている、浜辺の歌音楽館少年少女合唱団の指導者、木村静子先生でした。



思わぬ助っ人

そこで、おもむろに携帯電話を取り出し、なぜか自分の奥さんに電話をかけはじめたのは、この元旦に籍を入れたばかりの新婚カメラマン船橋陽馬。実は陽馬の奥さんの奈々ちゃんは秋田で活動するミュージシャンなのですが、なんと子どもの頃、浜辺の歌音楽館少年少女合唱団に所属していて木村静子先生の教えを受けていたというのです。そこで奈々ちゃんから、まだお会いしたことのない静子先生についての情報を聞いてみようと電話をしてくれたのですが、奈々ちゃん曰く、音楽大学を出られている先生だし、音楽理論を粛々と講義してくれるということではないかもしれないけれど、きっと何かしら教えてもらえるはず、とのこと。これは、なんとか明日お会いしたい！と盛り上がるのんびりチーム。しかし今日はもう遅いので、手配は明朝からにして、宿泊先の「縄文の湯」へと移動。それぞれ温泉に浸かって明日に備えます。

1月15日

朝8時、「縄文の湯」を出た僕たちがまっすぐ向かったのは、鷹巣駅前の後藤惣一郎さん作曲『から松』の音楽碑でした。表面には対位法を使った『から松』の楽譜が彫られ、裏には、「楽譜 後藤惣一郎、書 後藤みえ」の文字と、後藤さんの教え子代表として、文芸評論家の井上隆明さんによる、後藤惣一郎さんの功績が愛溢れる文章で刻まれていました。さらに、奥様の内助の功について言及されていたりと、雪で冷えたはずの石に温もりさえ感じます。そして今日はなんといっても惣一郎さん93歳のお誕生日。みんなで「おめでとうございます！」の気持ちいっぱいに、後藤さんに倣って、音楽碑を囲んだ証拠写真を撮りました。



『浜辺の歌』のピアノ

鷹巣を出た僕たちは雪道を車で1時間半走り鹿角市へ。実は今回の取材にあたり、後藤惣一郎さんのご自宅ともう一つ、あらかじめ約束を取り付けていた場所があります。鹿角市十和田毛馬内にある「旧あぶらや旅館」さん。そこに、『浜辺の歌』のピアノと呼ばれる1台の古いピアノがあります。現代の音になってしまわないようにと、あえて調律もせず大切に残されてきたそのピアノには、当時毛馬内の大地主だった大里健治さんと、毛馬内の小学校で教師をしていた成田為三さんとの深い友情の物語がありました。ピアノを前に、大里健治さんのお孫さんにあたる、大里和正さんにお話を伺います。



大里和正さん



大里　１５０円で、家1軒が建った時代で。

一同　えぇ～!?

矢吹　でも、どうしてそこまで？

大里　もともとおじいちゃんは音大に行きたかったんですけど、耳の病気だったんですよ。結局それで行けずじまいで。でも音楽への思いがすごくあったので。

藤本　なるほど。

大里　成田為三先生も、その当時は教師というよりは音楽の道をまっすぐ目指したかったと思うんですね。それでうちのおじいちゃんと意気投合というか。

一同　なるほど～。

藤本　当時だから、周りにそんな人いないですもんね。

大里　おじいちゃんの話によると、その当時、発表会をやった頃って、旧森吉町の町民や秋田県民は、ほとんど『浜辺の歌』を聴いたことがなかったらしいんですよ。それにすごいショックを受けていたっていうのを聞いたことがあります。だから地元の人に知って欲しかったっていうことですよね。

矢吹　こちらの旅館は、いつごろまで営業されていたんですか？

大里　平成8年までですね。昭和18年として赴任してきたたった1年の間で、すごく深い交流ができたと。

大里　はい。それで昭和2年におじいちゃんが、作品の発表会を「ぜひともやらせたい」って言って、ピアノを買い求めたらしいんです。

一同　へぇ～～～。

矢吹　その発表会をやりたいがために、このピアノを？

大里　そうです。

藤本　いくらしたんだろう。

大里　当時で８００円くらいだったそうです。

藤本　８００円というと……？

藤本　そもそもおじいさん（故・大里健治さん）と為三さんとの関係って？

大里さん（以下敬称略）　大正2年に、毛馬内尋常高等小学校に為三さんが音楽教師として来たんですよ。そこで初めて知り合って、それで翌年にはもう東京音大へ行くので、たった1年しか赴任していなかったんですが……。

藤本　じゃあ、毛馬内の小学校の先生から旅館業を始めたんですけど、それまでは地主だったんですよ。菜種油を絞っていたところで財を成して地主になって。

矢吹　それで「あぶらや旅館」さんなんですね。

大里　そうですね。

矢吹　このピアノを見に泊まりにこられた方とか。

大里　当時はけっこうおられましたね～。国立音大とか、あとは奈良大学とか。

矢吹　へぇ～。

大里　ここから坂を上がると、内藤湖南さんという、京都大学で東洋史学の教授をされていた方の生家があって。

藤本　すぐ近くなんですか？

大里　そうですね。

藤本　なんかやっぱりこの土地って……。

大里　たぶん、昔のほうがこのあたりのカルチャーレベルは高かったと思いますよ。

藤本　すごい。不思議だな～。

大里　おじいちゃんは生前「地方からプロを出したっていいだろう」っていうのが口癖でした。

藤本　へぇ～～。

大里　結局、中央でプロって当たり前じゃないですか。

藤本　はい。

大里　だったら、地方で本物を出したっておかしくないんじゃないって。それでピアノ教室をずっとやっていましたね。80代まで。

藤本　へぇ～～すごい。毛馬内、鹿角のあたりは本当にいろんな方がいらっしゃったんですね。

大里　そうですね。やっぱり、南部藩というか。佐竹藩じゃないっていう、どこかそういったものがあるんですよね。

藤本　そうですよね。年代的には、為三さんとおじいさんは同い年くらいですか？

大里　為三さんのほうが4～5歳上みたいですね。

藤本　おじいさんは、県外に出られたりしたこともあるんですか？

大里　地主だった時代に、鎌倉に土地を買わないかっていう話があったらしいんですよ。やっぱりすごく行きたかったらしいんですけど、ちょうど戦時中だったので危険だということであきらめて。

矢吹　そうか～。

大里　それでも音楽は捨てきれなかったと。

一同　へ〜〜〜。

大里　当時は、音楽家になるなんて明日がわからないじゃないですか。戦争中だったので、特に西洋音楽は難しい時代だったと思います。

藤本　そうですよね。

大里　当時、おじいちゃんは毛馬内の盆踊りの振興会長もやっていて、実は毛馬内の盆踊り（国の重要無形民俗文化財）も、舞踊家を呼んで手の動きを揃えたり、手直ししたのがおじいちゃんなんです。それも賛否両論なんですよ。でも揃ってなかったので、揃えたほうがいいって。

一同　へえ〜。

大里　お囃子も、戦後に変えてるらしいんですよね。現代の人がのれるリズムに変えたって。でもみんな知らないんです。

藤本　続いてるものって実はそうですよね。スタンダードなものって常にチェンジし続けてる。しかしおじいさんは、西洋音楽をどこでどうやって知ったんだろう？







大里　小さい頃に、知り合いの家に遊びにいったときにオルガンがあったらしいんですね。おじいちゃんはとにかく音が出るものが好きだったっていうのを最初に母（ひいおばあさん）が気づいて。

藤本　為三さんもお父さんにバイオリンを買ってもらったのがきっかけと何かで読みました。

大里　そうですね。

藤本　音楽って、地方にいながらでも世界に抜けていく感じがあったんですかね。

大里　おじいちゃんも、気持ちはたぶん東京とかではないんですよね。もっとヨーロッパとか。

藤本　だからこそ、余計に周りは理解できないですよね。

大里　戦時中っていうのもあったから。

一同　うーん。

藤本　昨日、後藤惣一郎さんにお会いして、お話を聞いてきたんです。

大里　ええ。いかがでしたか？

藤本　いやぁ、めちゃめちゃチャーミングで。

一同　（笑）。



矢吹　今日が誕生日で、93歳になられて。

大里　ああ、そうだったんですか。

藤本　ずっと立ちっぱなしで、まるで指揮してるみたいに身振り手振り交えてお話してくれて。

大里　はい。

藤本　で、後藤さんも小学校の校長先生をやられていて、音楽が好きっていうところから、音楽を通してどう子どもたちを教育するかをずっと考えてこられたことが伝わってきたんですね。で、為三さんも毛馬内で教師されたのはたった1年間ながら、子どもたちには大人気だったっていうじゃないですか。

大里　そうですね。

藤本　本質的に子どもたちのための教育というか、そういうことをきっと為三さんは考えていて、それを共感してくれる、おじいさん（大里健治さん）が近くにいたからこそ、それをやりきることができて。

大里　だから子どもたちが、為三さんの後にきた先生の授業をボイコットしたり（笑）。

藤本　そうそう（笑）。すごいエピソードですよね。

大里　自分も子どもたちとの接点って、やっぱり音楽だなと思うんですよね。最近の流行りの音楽でも、音で聴くので息子と「このアレンジがすごいね」とか言い合ったり。

矢吹　お子さんは音楽をされていたんですか？

大里　いや、まったくですね。陸上の長距離で、国体に選ばれたりしたんですが、自分の好きな曲の拍に合わせて走ったらいいよって教えたんです。

一同　はぁ〜!!

大里　絶対音感と同じで、絶対にリズムがずれないというか。そうすれば、天気が悪かろうが関係なく自分のペースが崩れないから。

一同　すごい！

大里　音楽が陸上に役立ったというか。やっぱり音楽のパワーはすごいなと。絵の上手な人もいいし、音楽に長けてる人もいいし、勉強もそうだし、いろんなジャンルの得意があってそれがいろんなことに繋がるのに、ひとくくりにするのがいけないんじゃないかなと思います。

藤本　きっと、そういう実感が為三さんにもあったから、為三さんも後藤さんも、教育者として対位法が大事なんだ！　っていうことに気づいたんだと思うんです。いま言ってくださったような、一つの物差しで1番2番って決めてしまうんじゃなくて、それぞれの良さがあって当たり前にみんな主役なんだっていうのが、対位法なんだなって。

大里　そうだと思います。音楽って音を楽しむことですもんね。

藤本　いやあ、今日はすごくいい話を聞けました。

一同　うん。

藤本　おじいさんの精神がしっかり受け継がれているのを感じました。ありがとうございました。

一同　ありがとうございました。

浜辺の歌

作　詞　林古渓（はやしこけい）
作曲年　一九一五～一六年頃（大正四～五年）
※この情報は原譜に基づいて作成しています



あした浜辺をさまよえば
昔のことぞしのばるる
風よ　音よ　雲のさまよ
よする波もかいの色も

りすりす小栗鼠

作　詞　北原白秋
発表年　一九一九年（大正八年）

りす　りす　小栗鼠
ちょろちょろ　小栗鼠
杏の実（あんずみい）が赤（あぁか）いぞ
食べ食べ　小栗鼠



Narita Tamezo Composition Collection

ほかにもあります

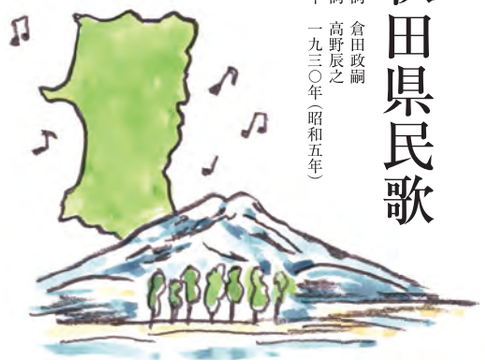
成田為三 作曲集

為三は、51歳の生涯を閉じるまでに300以上の作品を作曲したとされています。歌う子どもたち（人たち）の心が豊かになるよう、願いのこもった童謡や合唱曲は、100年近くの時が経っても色褪せない魅力があります。

Illustration: 石川飴子

秋田県民歌

作　詞　倉田政嗣
補作詞　高野辰之
作曲年　一九三〇年（昭和五年）



秀麗無比なる鳥海山よ
狂瀾吼え立つ男鹿半島よ
神秘の十和田は田沢と共に
世界に名を得し誇の湖水
山水皆これ詩の国秋田

鳰の浮巣（にお）

作　詞　北原白秋
発表年　一九二五年（大正一四年）



鳰の浮巣に灯（ひ）がついた、
灯がついた
あれは蛍か星の尾か
それとも蝮（まむし）の目の光

赤い鳥小鳥

作　詞　北原白秋
発表年　一九二〇年（大正九年）



赤い鳥　小鳥
なぜなぜ　赤い
赤い実を　たべた

雨

作　詞　北原白秋
発表年　一九一九年（大正八年）



雨がふります
雨がふる
遊びに行きたし
傘はなし
紅緒のお下駄も緒が切れた

犬のお芝居

作　詞　北原白秋
発表年　一九一九年（大正八年）

ちゃっぽんちゃっぽん
ちゃっぽんぽん
ちちんがちりちり
ちゃっぽんぽん
小犬がひょこひょこ立って出た
緋染の手拭　頬かむり



望郷の歌

作　詞　吉丸一昌（よしまる　かずまさ）
作曲年　一九一五～一六年頃（大正四～五年）



見よや　故郷の空に
時雨（しぐれ）降るなり
時雨ならず
雨ならず　母の袂（たもと）の涙
降るなり

ちんちん千鳥

作　詞　北原白秋
発表年　一九二一年（大正一〇年）



ちんちん千鳥の啼（な）く夜さは
啼く夜さは
硝子戸（がらすど）しめてもまだ寒い
まだ寒い

青い魚

作　詞　北原白秋
発表年　一九二五年（大正一四年）



青い魚が呼んでます
紅い魚が呼んでます
今夜のお月さん　十五夜さん
お池の晩めし　めしあがれ
香炉（こうろ）ももやもや
煙しましょ



4 Chapter

のんびりミュージッククラブ

NMC結成!?

お昼12時、「旧あぶらや旅館」を出発した僕たちは、昨夜話していた浜辺の歌音楽館少年少女合唱団の木村静子先生に会うべく、北秋田市米内沢へと出発します。木村静子先生、普段は北秋田市の職員をされているそうで、職場の北秋田市役所森吉庁舎で少しお話できることになったのです。途中、北秋田がホームグラウンドの陽馬アテンドのもと鹿角市花輪（はなわ）にある「したかわら」というお店で美味しい十割そばをいただき、腹ごしらえもバッチリ。約束の午後2時半には森吉庁舎に到着。早速、お話を伺うことにします。



木村静子先生



一同　よろしくお願いします。

木村さん（以下敬称略）　よろしくお願いします。

藤本　普段はこちらでお勤めになっているということですよね？

木村　はい。そうなんです。

藤本　すでにお話は聞いてくださっていると思うんですが、今回、成田為三さんを特集しようと取材を続けていまして。で、昨日後藤惣一郎さんにお話を伺ってきたんです。

木村　お元気でしたか？

藤本　元気でしたねー（笑）。

矢吹　身振り手振りでこうやって話してくれました（笑）。

木村　パワーのある方ですよね。

藤本　本当に。でもやっぱりご高齢なんで、そのうちだんだん「さっきも聞いたんだけどな」って話を何回もしてくれるんですけど、その何度も何度も話してくれることの一番が対位法のことだったんです。とにかくそこがポイントなんだなってことが後藤さんからグングン伝わってきて。で、対位法っていうのは、主旋律があってサブがあるみたいなことではなくて、全部が主役なんだとか。なんとなくわかる気がするんですけど、具体的にはどういうものなんだろうって。そもそも合唱団では為三さんの作った曲を中心に歌うんですよね？

木村　そうですね。でもいま流行っている曲とか、オーソドックスな合唱曲とかいったものも。

藤本　為三さんの曲の特徴みたいなものってやっぱりあるんですか？

木村　うーん、メロディがすごくきれいですよね。子どもたちもすごく覚えやすいっていうか。

藤本　それはやっぱり対位法でできてるからってことなんでしょうか？

木村　そうですね。こちらも教えやすいですよね。合唱ってハモらないといけないけど、こっちの旋律をしっかり歌って、次、もう一つの旋律も対位法でできてると覚えやすいんですよ。下の旋律を歌っても、それだけでもきれいなメ

ロディだよねって。どちらも自分たちは伴奏だっていう感じがしないで。

藤本　なるほど。普通なら主旋律のメロディがあって、もう一つは、ある種ハモるための旋律になる。

矢吹　主役を引き立てる、みたいな。

木村　ですよね。ずっと同じ音が続いたりとか、他の合唱曲だとそういうのが多かったりするんですけど。成田為三が作曲した合唱曲は対位法になっているので追いかけたり、ハモったりで、下のパートの人も歌いやすい。

藤本　歌ってる人もそのほうが楽しいというか。

木村　ですよね。いつも同じ音で覚えにくいなっていうのを歌っているよりは。

青谷　つられちゃいそうですしね。主旋律のほうに。それに合わさったときの喜びみたいなのが大きそうですね。

木村　そうですよねえ。

藤本　独立してるのに、一緒になったときれいなハーモニーになるって、なんかすごい。

矢吹　相乗効果だ。

木村　そんな感じですね。

藤本　それが最も顕著な曲とか、そういったのってありましたか？

木村　どうでしょうかねー。



青谷　ベストオブ対位法？

一同　あははは（笑）。

木村　対位法だと何でしょうかね……。子どもたちが歌ってるのだと、『山の枇杷（びわ）』とか。あと、『うらうらと』『ほろほろと』。それはみんな、輪唱がメインで追いかけながら、とってもきれいですよね。

藤本　例えば、僕たちがみんなで歌いたいなと思ったとして、わかりやすく対位法の曲で、練習して歌えるようになる曲というか。

木村　歌えるように……。

藤本　歌っていて気持ちがいい曲とか。

木村　気持ちいい曲、うーーん、子どもたちが歌ってるときに、きれいなのはやっぱり『うらうらと』ですかね。合唱団の子どもたちは割と小さい子が多くて、上手い子ばっかりの合唱団でもないので、無理のないように歌って活動してるんですけど、それでも、割と覚えやすくて、歌ったときにきれいにハモって、お客さんが聴いてて、最後に「あーきれいだなあ」って思ってもらえる曲なので。



藤本　なるほどー。あと後藤さんの『から松』も、どういう曲かいまだにわかってなくて。

木村　『から松』もすごくきれいで。下のパートが、出だし、すごくきれいなんですよ。なので、これも歌ってて気持ちいいよねって。下の人たちもきれいに入ってこれるよねって。

藤本　まさに対位法を使った曲って言ってたね。

青谷　「2位も3位もない！　1位だ！」って。

木村　作曲コンクールの！

矢吹　みんな知ってる（笑）。

木村　本当に『から松』素敵で。子どもたちも何年か前から歌ってて「から松すごくいいよねー」って。みんな好きな曲ですね。

藤本　そうかー、うん、やっぱりちゃんと教わりたい。



青谷　教わりたいですね。

藤本　指導いただけませんか？　僕たちに。

木村　え?!

矢吹　私たち、明日丸一日時間があるので、そのなかで1、2曲覚えたいです。

木村　土曜日の表紙撮影の日はいらっしゃらないんですか？

矢吹　土曜日ももちろんいます。

藤本　表紙撮影のときにはぜひとも子どもたちの歌を聴かせてもらいたいと思っているんですけど、対位法っていうのを体感してみたいんです。そもそも後藤さんは何でそんなに対位法にこだわるんだろう？　為三さんはドイツで一体何を学んで、日本に何が足りないと思ったんだろう？　って考えたときに、たった1年、毛馬内の小学校で子どもたちに音楽を教えたそのときの気持ちとか、そういうものがすごく大きかったんだろうなあっていうのが、何となく取材しながらわかってきて。だからこそ、為三さんも後藤さんも対位法にこだわって、子どもたち全員に音を楽しむってことを体験してもらいたかったんだと。そんなふうに感じたいま、僕たちとしてもそこにこだわって、練習して、体感してみたい、っていうのがいまの気持ちなんです。



木村　ええ、何て言えばいいんでしょうね。ふふふ。

藤本　だから、明日でも（笑）。今日の晩でも。

矢吹　どこかで一度、教えていただくとかお願いできれば。例えば今日、一回教えてもらって、練習して、明日は私たちで自主トレをしてきて……（笑）。

木村　あははははは（笑）。

矢吹　ご指導いただきながらっていう。

藤本　やっぱり『のんびり』って、誌面なので、別にそこから音が聞こえてくるわけじゃないんですけど、でも、たった3日、4日の取材のなかで、それぞれにいろんな土地からこの秋田に来て取材をするので、その瞬間、全員でやれることを全部やりたいっていうか、燃え尽きたいんです。自分たちでも。今日の夜か明日、ご指導いただけないでしょうか？



木村　今日、明日ですよね？

藤本　今日か明日です。

木村　じゃあ、今日……。

藤本　やった！

木村　あの、合唱団で教えるときに、いつも一緒に相談してる、すごい理解者で、私が直前に楽譜を渡しても、ピアノをすぐ弾いてくれるような人がいるんですよ。

藤本　この町に？

木村　そうです。北秋田市内にいるんですけど、できれば協力してもらって、ピアノを弾いてもらえると私も楽っていうか、そのほうがいいかなって思うんで。彼女も仕事しているので都合を聞いて、今日か明日かってことで。

藤本　連絡取っていただいて。

矢吹　あの、場所を例えば用意するとしたら、どこが？

木村　今日、木曜日だと公民館でどこか空いてる部屋をお借りできれば。

矢吹　わかりました。手配します。



静子先生が伴奏の方の都合を確認するべく一度部屋を退出されたところで、こちらも早速公民館に電話をします。ちょうどピアノのある部屋が空いているということで予約完了。またこれ急展開だなぁ〜と思いつつ、もう丸3年こんなことを続けてきたのんびりチームのどっしりしたこと！　まったく動じないのが頼もしい限り。

そしてさらに、手前味噌ながらこのチームが素晴らしいと思えたのは、みんなが思いを同じくしていたからでした。その思いとは、後藤惣一郎さんに自分たちの練習の成果を聴いてもらいたい、ということ。そこで、明後日土曜日の表紙撮影後に後藤さんに音楽館まで来てもらえるよう、ヤブちゃんが電話をしてくれます。と、そこで静子先生が戻ってきました。

藤本　ドキドキ。

木村　じゃあ、今夜ということで。

一同　おぉー!!（拍手）ありがとうございます！

木村　あの、何人か声をかけてもいいですか？　大人のチームを。合唱団だった子どもたちがいまお母さんになって、一緒に歌ったりしてるんですよ。

一同　へぇ〜。

木村　大学とか仕事で一回出た卒業生がUターンしてきても歌いたいっていうので、最初は4、5人で作ったんですけど、それが現在14、5人で。MMCっていうグループで。森吉ミュージッククラブ。

一同　おぉ〜。

木村　一緒に入ってもらえれば歌いやすいかと思って。まぁ、何人来れるかはわからないんですけど。あ、奈々ちゃん（陽馬の奥さん）にも声かけましょうか。

一同　おぉーー！

藤本　ぜひぜひぜひ。

木村　奈々ちゃんも卒業生なので。

一同　よろしくお願いします！

NMC結成

夕方、森吉庁舎を出発し、ひとまず宿泊先の「あゆっこ」にチェックイン。練習の前に夕食を済ませておこうと、すぐに準備をしてもらい、打ち合わせも早々に夕ご飯をいただきます。ドキドキの初練習を前に、しばしリラックスタイムといきたいところですが、食べ終わるや音楽館の向かいにある公民館へと移動。約束の夜7時、一番最初にやってきてくれたのは、陽馬の奥さんの奈々ちゃんでした。さらに静子先生が娘さんのまつりちゃんと、伴奏をしてくださる齊藤さんとともにやってきてくれました。さらに途中から、合唱団OGで、MMC（森吉ミュージッククラブ）の泉谷さんも。

藤本　とにかく一回、『うらうらと』を聴いてみたいね。

矢吹　そうですね。



木村　奈々ちゃんわかる？

奈々さん（以下敬称略）　『うらうらと』だったら覚えてると思います。

一同　お〜〜!!

齊藤さんのピアノに合わせて、静子先生とまつりちゃんが上のパート、奈々ちゃんと泉谷さんが下のパートを担当して『うらうらと』を歌ってくれます。



一同　すご〜〜い!!!（拍手）

船橋　できる気がしない！

藤本　自分たちがやるとは思えない！

木村　聴いた感じより、覚えるの簡単だから。

一同　え〜。

藤本　でも、確かにいいね。

矢吹　かっこいいですよね。迫力がある。

船橋　4人でこんなに聴かせるなんて。

藤本　ほんとだよ。

木村　奈々ちゃんも、これ歌ったの久しぶりじゃない?!

奈々　久しぶり！　10年以上……。

青谷　へえ、すごい！

藤本　やっぱり、おすすめはこれですか？

木村　対位法にこだわれば。

矢吹　あの……『から松』も聴いてみたいです。



そして『から松』も聴かせてくれました。

一同　お〜〜〜!

藤本　すごい素敵だ！

矢吹　めちゃめちゃ良い曲！　すごい、感動しちゃった！

今井　泣きそうになった。

青谷　2位も3位もねえ、1位だ！

一同　（笑）。

藤本　いいなあ〜。『から松』と『うらうらと』。どうする？　『うらうらと』ができる気がしない（笑）。

木村　でも、ワンフレーズ覚えちゃえばね。何ヵ所かね、ここだけちょっと練習しようってところがあるので。

奈々　そこだけ押さえれば。

木村　練習するとこないよね。

奈々　ないですね。

藤本　じゃあまずは、『うらうらと』を教えてもらおうか。

矢吹　そうしますか。

と、ここから怒濤の練習タイムがスタート！

木村　どうしようかな。まず分かれる前に、上と下のメロディーが一緒なんですよ、基本。追いかけっこなので。

なので、♪う〜ら〜う〜ら〜と〜 の〜ど〜け〜き〜は〜るの〜 こ〜こ〜ろ〜よ〜り〜♪ って同じメロディーをまず覚えていくといいので、やってみましょうか。

矢吹 高いね（笑）。

一緒にワンコーラス歌ってみる♪

木村 これで、一つなんですね。なので、これを覚えちゃうと、5分の4できた感じ。

今井 え〜!?

木村 もう一回いってみましょう。せーの。

ワンコーラス歌う♪

木村 そんな感じで。

一同 （ざわつく）

木村 大丈夫ですよ、歌えてますよ。

さらに音の上がり下がりなど教えてもらう

木村 じゃあ、試しに追いかけてみますか。

藤本 うそ、早い！

一同 （笑）。

と、この調子で猛練習すること1時間半。途中、「休憩は大丈夫ですか?」という静子先生に、全員即答で「大丈夫です！」と答える熱中ぶり。次に後藤さんの『から松』の練習に移ると、これがまたもう本当に良い曲で、のんびりチームさらにヒートアップ！ とにかくこの2曲『うららうらと』と『から松』を身体に覚えさせようと、みんな必死でした。

木村 真剣ですね！

矢吹 もう時間がないので……。

木村 いつ歌うんですか？

矢吹 土曜日です。明後日。

鍵岡 カメラマンみんな写真撮らずに必死にやってる（笑）。

木村 この必死さを撮ってあげたい。



藤本 そろそろここ出なきゃいけないよね？

矢吹 どうしましょ。ラスト『から松』いきます？







木村 じゃあもう一度いきましょうか。せーの。

ワンコーラス歌う♪

木村 大丈夫だね。じゃあ分かれてみましょうか。上と下と。

船橋 追いかけるほうと追いかけられるほうと。

木村 でも反対になるんですよ。追いかけてると思っても、追いかけられてるので。平等です。平等。

一同 へえ〜〜！

木村 上の人たちは ♪や〜ま〜ざ〜く〜らばな やまざ〜くら〜ば〜な〜♪ とあるんですけど、下の人たちは ♪やまざ〜くら〜ば〜な〜♪ といかないで、♪う〜ら〜う〜ら〜と〜♪ といくんです。そこで、飛ばして追い越しちゃうんです。

青谷 おもしろそう！

木村 じゃあ、いきますよ。せーの。

分かれて歌ってみる♪

青谷 すげ〜〜！

矢吹 難しいけど楽しい！

木村 できたでしょ!?

矢吹 楽しいね。

木村 後半もまた同じで、最後ちょっと違うけど、あとは ♪うらうらうらうらうらうらと〜♪ のところだけ覚えれば、完成です。ここは、上と下が交差したり重なったりっていうのが出てきますので。これが対位法ですね。じゃあ、上の人たちからいってみましょう。

木村 じゃあ『から松』通しますよ。

一同 はい、お願いします。

『から松』を通しで歌う♪

一同 （笑）。

矢吹 あとは自主トレ？

藤本 ラストやっぱり『うらうらと』じゃない？

矢吹 すみません、じゃあ、『うららうらと』お願いします。

『うらうらと』を通しで歌う♪





田宮 窒息しそうだ（笑）。

藤本 本当に最後、みなさんにも入ってもらって、全員で『うらうらと』やろうよ。

最後、『うらうらと』をこの場にいる全員で歌う♪

一同 ありがとうございました！（拍手）

青谷 楽しい！

矢吹 楽しいね。がんばらないと。

藤本 いてくれてよかったね。最初から僕たちだけじゃ絶対無理だね。

木村 こんなに喜んでもらって。

矢吹 今日はこれで。土曜日は表紙撮影で、またよろしくお願いします。

一同 よろしくお願いします！



5 Chapter
たのためぞ



受け継いだ証拠

宿泊先に到着した頃には、練習で火照った身体が再び冷めきる冬の秋田。それぞれ大急ぎでお風呂に入ってから、大部屋に再集合します。今日、自分たちで『うらうらと』そして『から松』の2曲を歌ってみたことで、対位法で作られた曲を歌うことがどれほど楽しいかを身をもって感じることができた僕たちは、あらためて、初日の後藤惣一郎さんの話を思い返します。為三さんの功績を未来へ繋ごうと尽力してこられた後藤さんはすでに93歳。為三さんや後藤さんが託してくれた音楽と教育との大切な繋がりについて、自分たちなりに受け取りましたというその証拠を、僕たちが歌う『から松』をもって表現したい！　というのが全員の気持ちでした。

まぼろしの泉

さらに僕のなかで、どうしてもチャレンジしておきたいことが一つありました。それは、取材初日に青谷明日香ちゃんの目に留まった為三さんのジャズ楽曲を復活させること。残された音源はなく、かつて出版された楽譜だけが見つかったという、まさに幻のあの曲を、取材冒頭にして明日香ちゃんが見つけたことに、僕は意味を感じずにはいられませんでした。そこでまず、その幻の楽曲の歌詞をあらためて僕が考え、一方で明日香ちゃんには楽譜を自分なりに編曲してもらいます。そうして完成した曲を、明後日、取材最終日の17日、明日香ちゃんに歌ってもらうことに決めました。と、時計を見れば既に夜中の1時半、やばいやばいと急ぎ就寝。

1月16日

朝9時、宿を出発したのんびりチームが、最初に立ち寄ったのは音楽館のすぐ近くにある龍淵寺（りゅうえんじ）でした。こちらに成田為三さんのお墓があるということで、全員でお墓参りをすることにします。しかし墓地全体が雪に埋もれてしまっていて、いったいどこが為三さんのお墓なのかわかりません。そこで、お寺の方におおよその場所を伺い、さらにスコップをお借りしてお墓探し。秋田チームの陽馬と田宮さんが慣れた手つきでどんどんと雪を寄せ、ようやく立派なお墓が顔を出しました！



お墓参りを終えてスッキリした気持ちで公民館へ戻り、早速、NMCの練習をはじめるのんびりチーム。しかしこれが見事にグダグダ。先生がいない自主練習は、どこをどう直していけばよいのかがわからず、ただただ時間が過ぎていきます。そんなときでした。ヤブちゃんより朗報が。明日17日、後藤惣一郎さんが来てくれることになったとのこと。再びスイッチが入ったのんびりチーム。不安は隠せないものの、なんとか自主練習をやりきります。

準備

さあ、お昼からは表紙撮影の準備作業です。回を重ねるごとに大掛かりになっている感もある『のんびり』の表紙撮影。明日は特に子どもたちがたくさんやってきてくれるということで、いろいろな場面を想定した用意がいつも以上に大変。買出し組、段取り組、メイキング映像撮影組、セッティング組と役割分担し、またその片隅で僕と明日香ちゃんは、まぼろし楽曲の制作と、それぞれに必死。その合間に歌の練習まであるもんだから、明日の本番を前にみんなもうヘトヘト。

初披露

夜になり、表紙撮影の準備も一段落してきたところで、僕が作詞、明日香ちゃんが『まぼろしの泉』を編曲した楽曲がついに完成。のんびりメンバーに初披露します。



一同　（拍手）

藤本　最初の「雲の切れまの青い旗」っていうのは、池田修三さんの作品集のタイトルでもある修三さんの言葉「センチメンタルの青い旗」を意識しつつ、今朝お墓参りのときに、雲の切れまに青空が見えて、それがちょうど旗みたいだなあと思ったので。そんな旗がはためくポールの雪の下に、為三さんが眠っていて、で、もともとこれは『まぼろしの泉』っていう曲だということと、本当はオーケストラの曲とかたくさん作っていたけど焼けてまぼろしになってしまっていることも含めて、きっとまだまだ泉のように溢れるその財産を「我らが秋田の為三さん」っていう意味と「秋田の為に」っていう意味で秋田のためぞ、と。さらに、





米内沢っていう小さな町からドイツを見ていた為三さんや、毛馬内からヨーロッパを見ていた大里さん、それに、先生をしていたときに感じたであろう子どもたちの目線。「カナリヤが歌いだす」ようにみんなが主役で歌いだす。そういうことを教育の現場でやりたいんだ、っていう毛馬内での話を真ん中にしたのが2番の歌詞です。それはまさに子どもたちの明日の為に、未来の為にという思いなんだと。それで最後はわかると思うけど、惣一郎さん。

一同　（笑）。

藤本　2も3もなく、とにかく1番に。大砲の音「ドーン」だけど、これはもちろん「対位法」のことで。

一同　うんうん。

藤本　それと、為三さんの本当のことを届かせる、繋いでいけるように、って。それは決して自分自身の為ではなくて、為三さんの為だったり、子どもたちの為だったり、そういう他の誰かの為ということで「他のためぞ」と。それをこの町から。っていうのでまとめてみました。

一同　わぁ〜。（拍手）

今井　なんか、歌詞とかもちゃんとこう……大きい文字で曲に合わせて出したりとかしたいですね。



たのためぞ

作詞　藤本智士　作曲　成田為三　編曲　青谷明日香

雲の切れまの青い旗
はためくポールの雪の下に
まぼろしの泉
秋田の為ぞ

小さな町からみる世界
小さな瞳でみる世界
カナリヤ歌いだす
明日の為ぞ

2も3もなく1番に
大砲の音本当の気持ち
響き届くように
他の為ぞ

小さな町から響くように

1月17日

朝起きると、今回の取材で初めての大雪。一夜のうちに車の上にこんもりと降り積もった雪を下ろし、慌てて公民館へ。実は本番を前に1回でいいので誰かにきちんと練習を見てもらいたいと、陽馬の奥さんの奈々ちゃんに来てもらっていました。さすが合唱団OGの奈々ちゃんの指導は的確で、NMCのレベルがここにきてグンと上がった気がします。本当はもっともっと練習したいものの、そろそろ合唱団の子どもたちがやってくる時間。



さあ、ここからしばらくは表紙撮影を成功させるべく集中です。今回は映像撮りや、音声撮り、そして写真撮影と、やらなきゃいけないことが次々とあって、いつも以上に時間のかかる撮影ゆえ、子どもたちの集中力との戦い。

しかし、なんとかかんとか無事に撮影を終えた僕たちは、ホッとする間もなく、夕方の4時、後藤惣一郎さんにお越しいただいて、ついにNMC本番を迎えます。

（後藤さんがホールへ入ってこられて、のんびりメンバーと合唱団のみなさんが拍手でお出迎え）

一同　こんにちはー！

（上着を脱いでいただき、ステージに向かってお座りいただく）





後藤　よいしょ！

矢吹　今日はありがとうございます。

一同　ありがとうございます！

藤本　あの、先日お話を聞かせていただいて。

後藤　ええ。

藤本　すごく感動したので、たった2日間なんですけど、頑張って為三さんの曲を練習しました。聴いてください。

後藤　はい。

矢吹　じゃあ、早速……。

木村静子先生の伴奏のもと、まずは為三さんの『うらうらと』を必死で歌い切った僕たちに、後藤さんも、合唱団の子どもたちやお母さん方も、たくさんたくさん拍手をくださいました。

ドキドキしながらも、なんとか歌い切ることができた安堵感が背中を押してくれたのか、僕たちは、いまにも立ち上がらんと手を動かしながら聴いてくださっていた後藤さんの姿に、恐れ多くも、つづく『から松』の指揮をお願いできないかと聞いてみます。そして後藤さん「はい」と一言、快く引き受けてくださいました。

そうして歌い出した『から松』。小さな身体を大きく動かし、全力で指揮をしてくださるその姿は本当に感動的で、僕たちは泣きそうになるほどの高揚感を胸に、おそらくこれまでで一番上手に『から松』を歌うことができたように思います。

歌い終わった後のみなさんの拍手に、味わったことのない充実感を感じながら、後藤さんに届くようにと用意しておいた横幕とともに「素敵な曲を、ありがとうございました！」と伝えます。そして後藤さんはなぜか「おめでとう〜〜〜!!!」と言って拍手をしてくれて、もう、その場にいる全員が笑顔でした。

※そのときの歌声はぜひこちらで。

http://non-biri.net/information/info/247/









そして最後にもう一曲聴いてほしい曲があると、今度はグランドピアノの前に移動していただきます。

藤本　為三さんの『まぼろしの泉』という楽譜が見つかったという話を聞いたんですけど、その楽曲に僕たちが詞を書いて新しい曲にしたので、歌ってもらいますね。

後藤　あぁ。はい。（後藤さん、楽譜を見る）

藤本　聴いてください。『たのためぞ』という曲です。

後藤　……あぁ！

※『たのためぞ』はコチラでお聴きいただけます。

http://non-biri.net/information/info/247/

池田修三さんの『はじまり（一月）』という作品が表紙となった楽譜を手渡し、さらにその歌詞が頭に入っていくよう、めくり台を用意、曲の進行に合わせて歌詞をめくっていきます。そして明日香ちゃんが歌い終わると、大きく拍手をしてくれました。







一同　（拍手）

後藤　ありがとうございました。いや〜、これは初めてだ。

一同　おぉ〜。

後藤　やっぱりね、為三の曲ってね、言葉に、詞に味がでるの。

藤本　うん。

矢吹　詞が？

後藤　単なるものじゃない。言葉がちゃんと生きる。素晴らしいな。いま初めて聴いた。

藤本　3番の歌詞は、後藤さんのことを思って書いた詞なんです。

後藤　う〜ん、うん、うん。

藤本　『から松』が、2も3もなく、一等賞！

後藤　ははははは。

一同　（笑）。

藤本　「大砲の音」っていうのは、実は「対位法の音」なんです。対位法のことか、為三さんの本当の気持ちを届けたくて、みんな自分のことじゃなくて、為三さんの為に尽くしてきた後藤先生のことを思って書きました。

後藤　うん、うん。あぁ、どうもありがとうございます。

藤本　ありがとうございます。

後藤　ありがとうございました！（拍手）メロディがすごくね、自然なの。自然に。素直な。

一同　うん。

後藤　別の感じだと、寝言みたいになる。でもみなさんのは、ちゃんと意味が通っている。心が。音の高低の連続だけでなく、歌う人の心情。心が、非常に大事なの。だから、やっぱり詞と伴奏とマッチしている。……おめでとうございます。





一同　ははははは（笑）。

後藤　音楽と詞が一致している。

藤本　嬉しい〜。

後藤　これは本当なの。いや〜素晴らしいなぁ。

青谷　ありがとうございます。

藤本　よかった〜。

後藤　これ（『たのためぞ』楽譜）をもう一枚もらえますか？

矢吹　どうぞどうぞ！

藤本　何枚でも。

一同　（笑）。

後藤　私は資料を持ってないと。

矢吹　証拠がね。

後藤　どうもありがとう〜。

一同　ありがとうございました〜!!

（拍手）

たからもの

歌うことの楽しさ、音楽というものの素晴らしさについて、教えてくれた後藤惣一郎さん。後藤さんはまさしく現代の成田為三さんだと僕たちは思いました。そんな方に指揮をしていただき、自ら作曲された『から松』を歌うことができた幸福を、僕たちは一生忘れません。成田為三さんの『うらうらと』、後藤惣一郎さんの『から松』この二つの曲は、間違いなく秋田の宝、ニッポンの宝だと思います。これらの曲がこれからも歌い継がれていくことを願ってやみません。

そして最後に、後藤惣一郎さんをご自宅までお送りする車内の会話を掲載して終わりたいと思います。後藤さんの送迎を担当してくれた、のんびり秋田編集チーフの矢吹史子と、東京から来てくれているカメラマンの鍵岡龍門、この2人と後藤さんとの会話を後から聞いた僕は、涙を止めることができませんでした。為三さんが残し、後藤さんが僕たちに繋いでくれたものは何だったのか？　どうか最後まで読んでみてください。

後藤　いや〜。心のありがたさを、しみじみと感じました。

矢吹　こちらこそ、すばらしい指揮を、ありがとうございました。

鍵岡　練習のときは指揮がなかったからわからなかったんですが、先生が指揮してくれたことで、わかる部分が多かったです。楽しかった！

矢吹　歌いやすかったです、とても。

後藤　いや〜。みんな、やれるな〜。

鍵岡・矢吹　ははは〜！

鍵岡　やれてんのかな〜。

矢吹　どういうふうに歌ったらいいかが、先生のおかげでわかりました。

後藤　でも今日のは、本当に、人間としてのね、心のこもった、ほんとに赤裸々で、最も良心的なふれあいでした。なんの陰りもない、ざっくばらんでね。うん。

鍵岡　それはたぶん、先生がまっすぐ僕たちにくださったから、僕たちもまっすぐ返すことができたんだと思います。

矢吹　嬉しい……（泣）。

後藤　ほんとに良心的だった。心がわかる。心が通じる。

鍵岡　通じてもらえたんだね。嬉しいな。

後藤　いや〜。私も93歳だから、行き着く所まで届いたかなって思ってたのに……。誰がこんなこと考えたんだ？

矢吹　ふふふ！　私たちみんなでね。でも後藤先生にお会いして、こうしたいなってすごく思ったんですよ。

鍵岡　先生がこういう機会をくれたんです。

後藤　いやあ……心の信じ合いって、大事だな。心の掛け合わせだ。

鍵岡　やっぱり音楽は伝えることですね。伝わるんですね。

後藤　そうです。音楽だけでなく、人間としてのね、人を作っていく、助けていくという。

矢吹　先生、音楽はいつからやられてるんですか？

後藤　小学校のとき。小学校の先生のおかげ。

鍵岡・矢吹　へ〜!!

矢吹　どんな先生だったんですか？

後藤　先生とその奥さんのおかげ。奥さんはピアノを弾くのが上手で、ここらへんでどこにもピアノがないとき、七日市（なのかいち）（北秋田市七日市地区）にピアノがあったの。その七日市から教頭先生が来て、私はその生徒だったの。

鍵岡・矢吹　そうか〜。

後藤　恩師のご夫婦に刺激されたの。

矢吹　どういうところが良かったんですか？

後藤　ほんとの作曲の神髄を捕まえて、私に教えてくれた。

矢吹　「神髄」とはなんですか?!

後藤　いまでも私の家の軒下に、紅椿を植えてるんですよ。それは、私の恩師が作った曲で……

♪　や〜さしき母に〜
しか〜られて〜　な〜いた昔の
なつかしさ〜
お〜さなき頃の〜　思い出に〜
今年もまたさ〜く　紅椿〜　♪

という、非常に難しいんだけども、芯に心が入っている曲があって。だから私は紅椿を植えてるの。恩師を、ご夫婦を思い出して。

矢吹　え〜！　素敵な話！

後藤　やっぱり素晴らしい、昔の先生は。ほんっとに教育を愛した。徹底的に子どもを愛したもんだ。

矢吹　はぁ〜！

後藤　だから、私が音楽をやってみんなに言いたいことは、私の恩師の心をね、大事に伝えたいということなの。

矢吹　すごい、いいお話。

後藤　その恩師のご夫婦は全然、音楽学校なんか入ってない。師範学校だけ。

鍵岡　でも、音楽がすごく好きだったんですね。

後藤　そういう才能はあったんだろうな。その恩師に救われて、私は音楽に飛び込んだ。ふふふふ。

鍵岡・矢吹　わ〜〜〜！

後藤　音楽環境にある人は幸せだ。

矢吹　う〜ん。

後藤　いや〜。私も（昨年亡くなった）家内のことを思って、本当は外へ出たくなかったの。でも、今回だけはどうしても出なきゃいけないと思って。でもね、もう家内も、わかってくれると思うの。ありがたいことだ。こういうことやってもらってな。ありがたいことですよ。

矢吹　奥様も、後藤先生がこうやって楽しんでらっしゃるほうが嬉しいんじゃないでしょうか？

後藤　（奥さんが亡くなってから）どこへも出かけなかったんだけども、今日はやむを得なかった。今日初めて。今日は素晴らしい集まりだったなあ。

鍵岡　よかった〜。そう言ってもらえたら嬉しいです！

矢吹　嬉しいー！

後藤　素晴らしい。ほんとに素晴らしい集まりだ。

矢吹　また先生の指揮で歌いたいです。ありがとうございました！



いぶりがっこの村へ。

秋田で「がっこ」とは、漬物のこと。「雅に薫る」という意味の「雅香」が語源ともされています。なかでも、野菜をいぶして（薫製にして）乾燥させ、米麹や塩で漬けた「いぶりがっこ」の、そのスモーキーな香りは、まさに「雅香」。秋田のがっこの代表といえます。いぶりがっこは、その多くが県南地域で作られ、11月下旬には、収穫した大根を薫製にする「いぶり」の作業が行われます。初冬の限られた期間にだけ行われるその現場を見せていただこうと、特に生産者が多いといわれる、横手市山内地域を訪ねました。

取材・文＝矢吹史子　写真＝船橋陽馬
Text＝Fumiko Yabuki　Photo＝Yoma Funabashi





いぶりがっこを作って30年という、高橋キヨ子さんご家族を訪ねました。はじめに見せていただいたのは、収穫された大根。この後「いぶり小屋」に吊り下げるために、大量の大根を1本1本水洗いし、すべて手作業で縄で束ねていきます。

高橋キヨ子さん

大根は8月の後半あたりがら1個1個種蒔いで。種蒔ぐ分には機械でムネ上げで、ポッポと植えでいげばいいども、でぎだ大根を、抜いで、洗って……っていうのが大変。だって、こういう細いのがら太いのまであるがらね。小さいのは小さいので、刻んで漬ける。小さいがらって、捨てだらもったいないべ？　どれも一粒の種から生まれでるがらな。

これ持ってみでください。1本1キロでも10本あればな、重いべ？　この作業は、お父さんど一緒に。今は息子



もちょこっと手伝いながら。あど、近所の人、親戚の人がだも応援に来てくれる。助かってます。二人三人じゃ、とてもじゃないけど間に合わないがら。やっぱり男の力が必要だな。

1回、一小屋吊るせば1000本。それを今年は6回くらいやって、まだこの後3〜4回あるがら、全部で1万本にも近いがらな。

でも今年は助かる。雪降らねえし、あったかいし。畑から大根持ってきて、軽トラにブルーシートを敷いで、大根入れで、水入れで、今は立った状態でガボガボど洗っています。軍手はめで。昔はそこの堰さ逆さまになってガボガボど洗ってだ。

今は、囲炉裏がある小屋も珍しぐなってきて、囲炉裏の代わりにドラム缶を半分にして、車輪つけでカラカラど移動させられるようにしてる。せば、トラックも小屋に入って行ぐにいいがら、トラックさ上がって干せばいいがら楽なんだ。掛げるのも、前は縄でグルグルってやってだども、今はフックでひょいっと掛げるようにしたり。だんだんと進化してな。腰、痛ぐなるがらよ（笑）。せば、いぶり小屋さ行ってみるが。

いぶり小屋

はい、どうぞ〜。入ってみで。これで1000本くらいある。これで、いぶし始めて三日目がな。五日くらいでできるがら、もうちょっとだ。



夜も火は消さないで、24時間。だがらなるべぐ夜は大きい薪を入れで。こっちは桜、こっちはナラを入れでる。

そこにある黒いの、持ってきて食べでみれ！　大根と一緒に、柿もいぶしてるの。渋柿を皮むいで、そのままいぶしたの。渋みが甘みさ変わるんだな。甘いのやってもこうはならない。これやってるのはうぢだげがな。道の駅さ出してるよ。

いぶりがっこは、30年もやってるべな。こんなに多ぐやるようになったのは「道の駅さんない」ができでがらだな。その前は友だぢにあげる分をちょこちょこっと漬けでだぐらいで。最初は、家ど小屋を繋げだ所さ、部屋みだいにしてやってだけど、火使うがら、危なくて。それで一軒家にしたの。

大根は、最初は生の切り漬けを食べで、それがら1本漬けを食べで、それがら外で天日干したがっこ食べで……。でも、雪降るがら、みんな凍ってしまうべ。それでも大根はいっぱいあるし、もったいないどいうごどで、囲炉裏の時代に家の中さ干したのが始まり。



漬け小屋

この中は漬けて1ヵ月なったものが入ってるの。よぐ、漬けだ大根をいぶすんだど思ってる人も多いけど、こうして、いぶしてがら漬けるの。これで二小屋分、ちっちゃいのからおっきいのまで、2千本くらい。もうちょっとで完成だ。

上さ浮いでるのは、発酵してるべった。米ぬかどが、ザラメどが、塩どが、絞れできた水分の混ざったものがな。こういうの見れば、食べる気しないべどもな。「わー！　カビ生えでだー！」ってな（笑）。でも酒だって、ビールだって、納豆だって、カビだべ。

これが今年の最初ので、もう2週間せば、塩も砂糖も馴染んでくる。今取ればしょっぱいだけ。甘みは後から染みるがら。漬けで60日ぐらいなるど、全部ミックスされで良ぐなる。

私はここがら10分くらいの所の出身で。何にも知らなかったのに、こんなに鍛えられでしまった〜。嫁いで45年くらいになったがな。





いぶりがっこの作り方は、隣近所の友だぢがら教わった。「今年のはしょっぱいな」「せば、塩取って、砂糖足すが」どがって。毎年1年生！　味はやっぱり、みんな一軒一軒、微妙に違うな。だいたい同じ材料使ってるども、やっぱりその家庭の味ってのが出でくるな。

今年の大根は、なんだかあんまり良ぐないみたいだな。中が空洞になって。やっぱり農家は天気に左右されるがらな。

今の時期はいつもはもっと雪あるんだよ。大変大変！　このあたり、ぜ〜んぶ雪になって、吹雪、みぞれだもの。洗うのだって、手冷たくて。本当は、煙で鼻水は出るは、涙は出るは……今日みだいな天気だと、見てる人も楽しそうだなって思うがもしれないけどね。



「いぶりんピック」開催！



山内地域では毎年、いぶりがっこの生産者がその出来映えを競い合う、その名も「いぶりんピック」が開催されます。いぶりがっこの認知と、生産者の技術と品質向上が目的のこの企画。平成27年2月5日に行われた第9回大会には、26組が参加、いぶり小屋を見せてくれた、高橋キヨ子さんも出場しました。

「横手市内在住であること」「販売用のいぶりがっこを生産していること」「添加物は天然由来のものであること」「すべてオリジナルレシピであること」が参加資格。会場には、生産者たちの1年の集大成ともいえるがっこがずらりと並び、それを審査員が一つずつ試食していきます。









「いぶりんピック」第1回を企画した
横手市役所 観光物産課
山本剛さん

今回、9回目のがっこを見てびっくりしたのが、テーブルの上が以前より黄色くなかったこと。でも見ると、生産者の顔ぶれは変わらないんですよ。着色料、いぶし加減、柔らかさ、甘みのバランス……同じ人が違うものを作ろうと、こだわって研究し続けているのを感じます。初回は「添加物の縛り」すら、なかなか理解してもらえなかったんですよ。これからは、新たな出場者がどんどん出てきてくれると嬉しいですね。

私は今は担当からは離れていますが、来年で10回。ぜひ「文化を伝える」イベントとして繋げていってほしいですね。今は残念ながら経済的に成り立たないと文化がしっかりと伝わらない時代ですので、地域の宝物を伝え続けるためにも、消費者のみなさまに応援していただけるような仕組みを作っていくのが行政の役割かなと思っています。

「販路を見据えた完成度」「安全・安心・健康」「美味しさ」の審査基準のもと、今年の優勝「金樽」に輝いたのは、山内地域から出場した、木村よし子さんのいぶりがっこでした。

第9回いぶりんピック

「金樽」木村よし子さん



漬物づくりは、お父さん（ご主人）が退職してから本格的にやるようになって、今年で6年。いぶりんピックにはそれからずっと出てますけど、賞を取ったのは今年が初めて。嬉しいです。やって良かったなと思います。

味付けは、お父さん（ご主人）と二人で考えて。「これをこのくらい入れようか、こうなの、ああなの」って、いつも喧嘩して（笑）。一番に報告してやりたいです。

私、去年入院したんですよ、倒れてね。それまでは、いつもいぶりがっこを食べてました。でも、入院してから先生に「漬物食べてるからこうなんだよ」って言われてしまって（笑）。だから今は試食分だけしか食べないんです。

味は、まずは塩分を控えめにして。天日干しした高価な塩を使っています。あと、砂糖も普通のザラメより甘みの少ないものにしてます。それと、2番米（選別で出荷できなかった米）も使って甘さを出しているんですよ。

今ごろお父さん、がっこを桶から出して洗ってるところだと思います。一生懸命ね。今年はまだ桶から半分も出せてないから、暑くなる前に早く出さなくちゃ。今年は1反歩（たんぶ）くらい収穫できなかったんです。雪に降られてしまって。人を雇ってやってるし、大変です……。

でも、また新しいいぶり小屋を建てようと思って計画立ててます。体に気をつけて、がんばっていきたいと思います。



詩　修

詩人が描く池田修三の言葉⑦ 伊藤綾子

池田修三の版画に寄せた、詩人たちの書き下ろし作品



「あかいばら」1981年

ガールズレヴォリューション

まだ　こどもだなんて言わないで
一人で　行くことも　帰ることも
つなぐことも　放すことも
出来るんだもの

でも
でもね

もう　おとなだなんて言わないで
一人で　進むことも　戻ることも
見つめることも　逸らすことも
決められるのだけれど

だから
だからね

2人で生きていくつもり
わたしは　わたしと生きていく

伊藤綾子

1980年生まれ。秋田県出身。フリーアナウンサー。ABS秋田放送を経て2007年フリーに。日本テレビ『news every.』カルチャーキャスター、日本テレビ『輝き YELL！』ナレーション、TOKYO-FM『鈴木敏夫のジブリ汗まみれ』にレギュラー出演するなど、テレビやラジオに活躍中。また、小説『うちのタマ知りませんか?』（角川書店）を出版するなど、小説家としての顔も持つ。

池田修三

1922年秋田県にかほ市象潟町生まれ。版画家。秋田県内の高等学校美術科教諭を退職後、1955年に上京し版画に専念する。主テーマは子どもたちの情景で、晩年は風景画も手がける。作品は企業カレンダーや銀行の通帳、「広報きさかた」の表紙などにも使われる。2004年 82歳で死去。

航空

東京(羽田)⇔秋田　ANA/JAL … 約65分
大阪(伊丹)⇔秋田　ANA/JAL … 約80分
札幌(新千歳)⇔秋田　ANA/JAL … 約55分
名古屋(中部国際)⇔秋田　ANA … 約80分
【リムジンバス】秋田空港～秋田駅西口(約35分)

東京(羽田)⇔大館能代　ANA … 約70分
【リムジンバス】大館能代空港～大館市内(約55分)
大館能代空港～北秋田市(鷹巣)(約15分)

〈ANA〉0570-029-222 〈JAL〉0570-025-071

藤本流 のんびり飛行機の旅

車で丸1日かけて秋田へ行くことも多い僕にとって、伊丹空港から秋田空港までたったの80分。って、まるでワープ。しかも早割の安い航空券使ったら、大阪～東京の新幹線代と変わらない安さ！ 関西から意外に行きやすいのです。

新日本海フェリー

北行　敦賀(10:00)⇨新潟(22:30)⇨秋田(翌5:50)⇨苫小牧東(17:20)
南行　苫小牧東(19:30)⇨秋田(翌7:45)⇨新潟(15:30)⇨敦賀(翌5:30)

●秋田港から秋田市街へは車で約30分。
(秋田中央交通バスのご利用も可能)

〈秋田フェリーターミナル〉
018-880-2600
運航スケジュールは必ずお問合せください。





秋田新幹線 こまち

仙台⇔秋田
最速2時間5分
大宮⇔田沢湖
最速2時間21分
東京⇔秋田
最速3時間37分
〈JR東日本テレフォンセンター〉
050-2016-1600

福田流 のんびり新幹線の旅

東京から3時間半ほどで秋田まで。
お弁当食べて少し寝て、盛岡で青森行との切り離し作業で目が覚めて、本でも読んでまたウトウトしてると今度は大曲でのスイッチバックで目が覚めて、そこから約30分で到着。
簡単には寝かせない新幹線、それが「こまち」。
額の前で手で三角を作り、コマチ！ というのを流行らせたい。

高速バス

仙台⇔秋田　… 3時間35分(仙秋号)
東京⇔秋田　… 8時間30分(フローラ号)深夜バス
横浜⇔秋田　… 9時間40分(ドリーム秋田・横浜号)深夜バス
〈秋田中央交通(フローラ号・仙秋号)〉018-823-4890
〈JRバス東北秋田支店(ドリーム秋田・横浜号)〉018-862-9461
※秋田市以外の市町村を往復する便も複数あります。

自動車(高速道路利用)

仙台⇔秋田　… 約3時間30分
東京⇔秋田　… 約7時間30分
〈日本道路交通情報センター(秋田センター)〉
050-3369-6605

non-biri akita access map

北秋田市

浜辺の歌音楽館(P4)

北秋田市米内沢字寺の下17-4
TEL 0186-72-3014

【電車】
秋田駅
｜JR奥羽本線(1時間15分)
JR鷹ノ巣駅
｜徒歩(5分)
秋田内陸線鷹巣駅
｜秋田内陸線(25分)
米内沢駅
｜徒歩(15分)
浜辺の歌音楽館

【自動車】
秋田駅
｜(10分)
秋田中央IC
｜(25分)
五城目八郎潟IC
｜国道285号(1時間)
浜辺の歌音楽館

仙北市

紙風船館(P57)

仙北市西木町上桧木内字大地田3-1
TEL 0187-49-2201
上桧木内の紙風船上げ
毎年2月10日開催

【電車】
秋田駅
｜秋田新幹線こまち(45分)
角館駅
｜秋田内陸線(40分)
上桧木内駅
｜徒歩(10分)
紙風船館

【自動車】
秋田駅
｜(10分)
秋田中央IC
｜(10分)
河辺JCT
｜(5分)
協和IC
｜国道46・105号(30分)
紙風船館

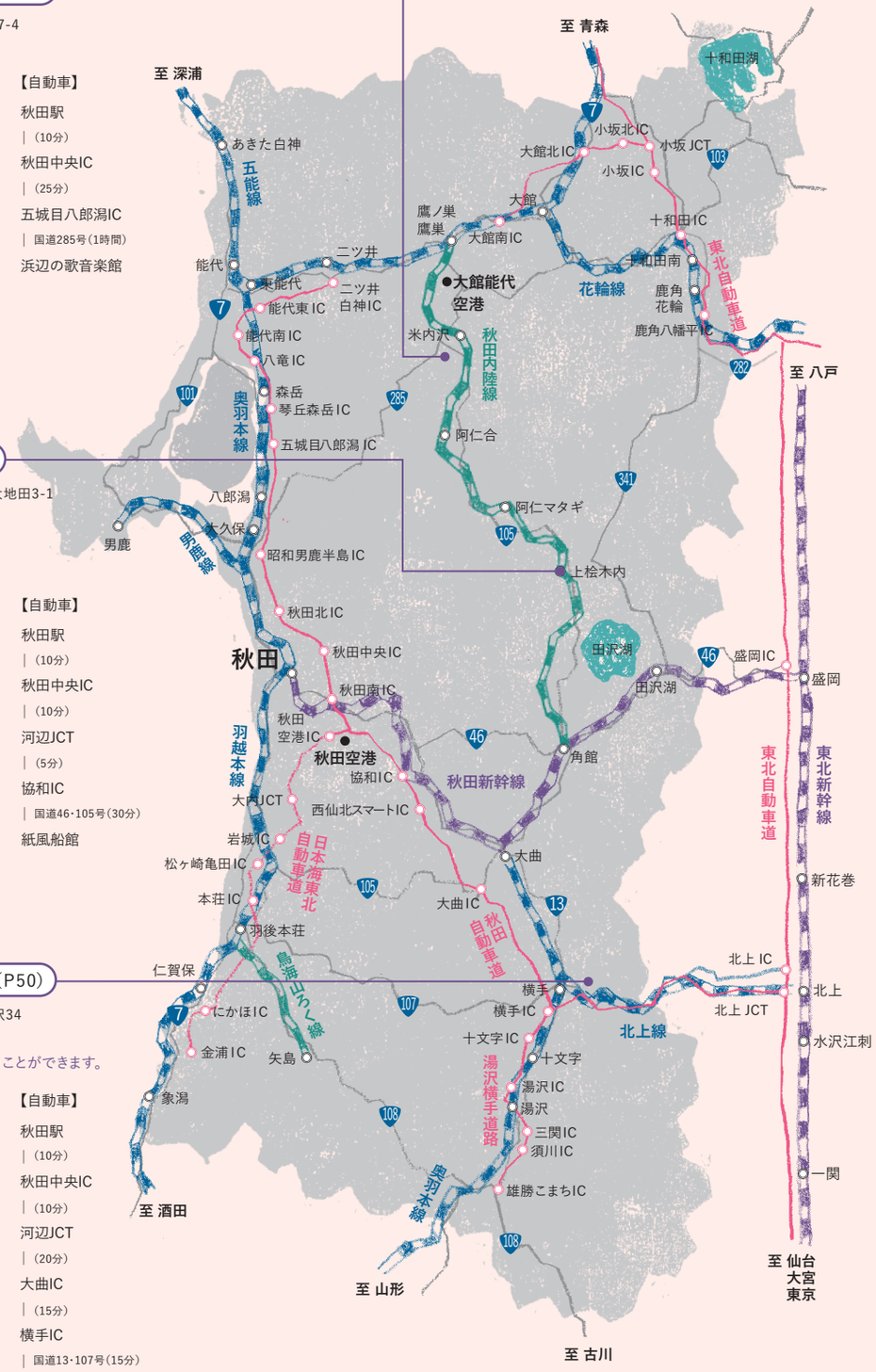
横手市

道の駅さんない(P50)

横手市山内土渕字小目倉沢34
TEL 0182-56-1600
特産のいぶりがっこを買うことができます。

【電車】
秋田駅
｜JR奥羽本線(1時間30分)
横手駅
｜JR北上線(15分)
平石駅
｜徒歩(5分)
道の駅さんない

【自動車】
秋田駅
｜(10分)
秋田中央IC
｜(10分)
河辺JCT
｜(20分)
大曲IC
｜(15分)
横手IC
｜国道13・107号(15分)
道の駅さんない



2015年3月17日発行

STAFF

編集長	*Editor in chief*
藤本智士（*Re:S*）	*Satoshi Fujimoto*
編集	*Editor*
矢吹史子	*Fumiko Yabuki*
田宮　慎	*Makoto Tamiya*
今井春佳	*Haruka Imai*
山口はるか（*Re:S*）	*Haruka Yamaguchi*
アートディレクション＆デザイン	*Art Direction & Design*
堀口　努（*underson*）	*Tsutomu Horiguchi*
写真	*Photograph*
浅田政志	*Masashi Asada*
鍵岡龍門	*Ryumon Kagioka*
船橋陽馬	*Yoma Funabashi*
題字・イラストレーション	*Masthead Illustration*
スダタカミツ	*Takamitsu Suda*
似顔絵	*Portrait*
田渕志織	*Shiori Tabuchi*
デザインアシスタント	*Design Assistant*
小阪温視	*Atsumi Kosaka*
動画	*Movie*
近藤康洋（*mel digital co,.ltd*）	*Yasuhiro Kondo*
佐藤　努（*mel digital co,.ltd*）	*Tsutomu Sato*
大道具	
秋田公立美術大学のみなさん	

発行

秋田県
観光文化スポーツ部観光戦略課あきたびじょん室
Tel: 018-860-1073

編集

のんびり合同会社　のんびり編集部
〒010-0021 秋田市楢山登町7-14
Tel ／ Fax: 018-832-8086
Mail: info@non-biri-go-do.jp

印刷・製本

秋田活版印刷株式会社

※ 乱丁・落丁はお取り替えいたします。
※ 本紙内容の無断転記、記載、複写はご遠慮ください。
※ 本紙データは2015年2月16日現在の情報です。
あらかじめご了承ください。
※ 本紙は「あきたびじょん」コミュニケーション媒体企画制作業務委託業務で制作いたしました。
©nonbiri all rights reserved.

のんびり公式ウェブサイト
http://non-biri.net

伊東俊介「しょしぃ」

以前、編集長の藤本くんと訪れて以来の秋田。
羽後町の花嫁道中の幻想的な光景は、
ずっと心に残っていたので、
また、冬の秋田に来られてとても嬉しいです。
今回は、そこで暮らす方々と出会う旅になりました。
お酒も、しこたま飲みました～（笑）
秋田の日本酒最高！
天洋酒店のご主人、奥さん、
お店の前でしょしぃ思いさせちゃってすいません。
おかげで、最高の写真を撮れました。
秋田って、チャーミングな人がいっぱいです。
また会う日まで……お元気で！

※しょしぃ＝秋田弁で「恥ずかしい」の意味。



伊東俊介　Shunsuke Itou

1971年生まれ。大阪出身。「Re:S」「カメラ日和」「天然生活」など、さまざまな雑誌で活躍する写真家。銀塩写真の美しさと家族写真の大切さを伝えるべく全国各地で開催している「いとう写真館」は昨年10周年を迎え、すでに、のべ4000組以上の家族を撮影している。

『のんびり』をお読みいただきありがとうございました。
アンケートにご協力ください。

『のんびり』は人を基軸に「あきたのほんとう」をまっすぐ伝えるマガジンです。本号へのご感想、今後とりあげてほしいテーマなどのご要望、ご提案を、ハガキか「のんびり公式ウェブサイト」のアンケートページからお寄せください。抽選で『のんびり』オリジナルプレゼントをお贈りいたします。応募〆切は2015年4月30日（木）。当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。

※個人情報はプレゼントをお届けするために利用し、その目的以外の利用はいたしません。

PRESENT No.1

いぶりがっこ



プレゼントの応募は終了いたしました

名様

P50に登場した横手市山内地域特産の、いぶりがっこ。おつまみやお茶請けにどうぞ。

PRESENT No.2

青谷明日香『うつくしい秋田』非売品CD



5名様

懐かしい情景が描かれた『うつくしい秋田』、秋田内陸線をイメージした『みどりのなかを』、秋田弁満載の『あんべいいな』の3曲が収録されています。

のんびり公式ウェブサイト　http://non-biri.net

ハガキでご応募の場合
❶ 郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、メールアドレス
❷ 本誌の入手先　❸ 今後とりあげてほしい話題　❹ 今号で面白かった記事（複数回答可）
❺ ご感想　❻ 希望のプレゼント
以上をハガキに明記の上、ご応募ください。

宛先　〒010-0021 秋田市楢山登町7-14　のんびり合同会社 のんびり編集部



伊東俊介

「しょしぃ」